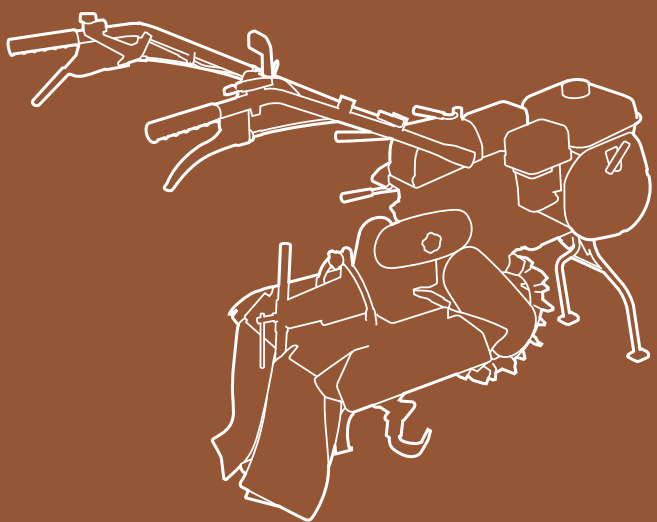
HONDA
汎 用 製 品

管理機　ロータリ

FR716　R300・RV300

取扱説明書



eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

管理機：FR716
一般公道での走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

ロータリ：R300･RV300
FR716用のロータリです。

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

《FR716 取扱説明書》 はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・4
安全ラベル・・・・・

運転操作のしかた・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。

警告

・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、十分な強度のアユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

警告

- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪の回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。
- 作業機を取外した本機はスタンドを立てても安定させることはできません。作業機を取付けておくか、柱等に固定して倒れないように保管してください。

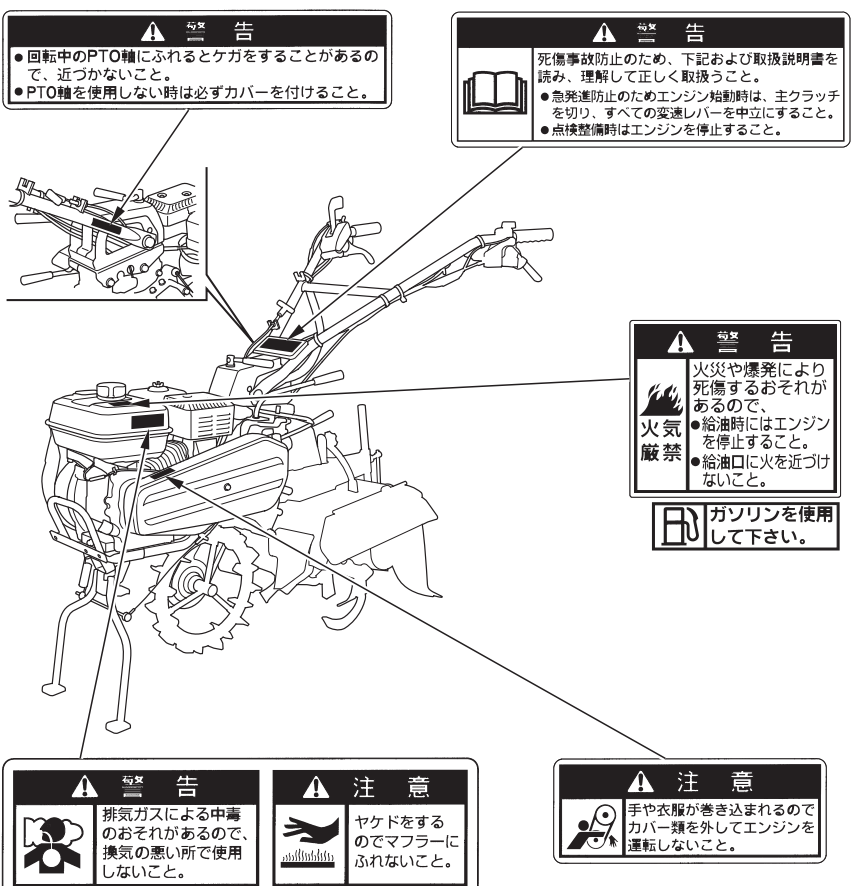
警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。（目安として荷台の高さの 4 倍以上の長さ）
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
  - ・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
  - ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

安全ラベル

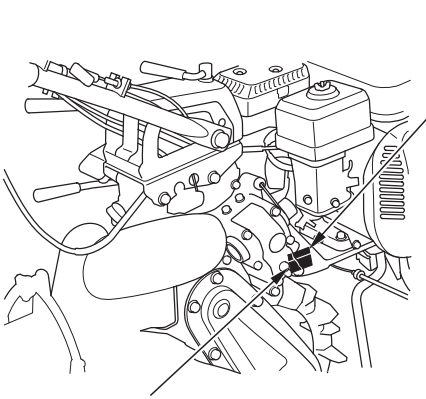
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



(参考: 上の銘板はJSタイプの物です。)

フレーム号機表示位置

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

安全鑑定

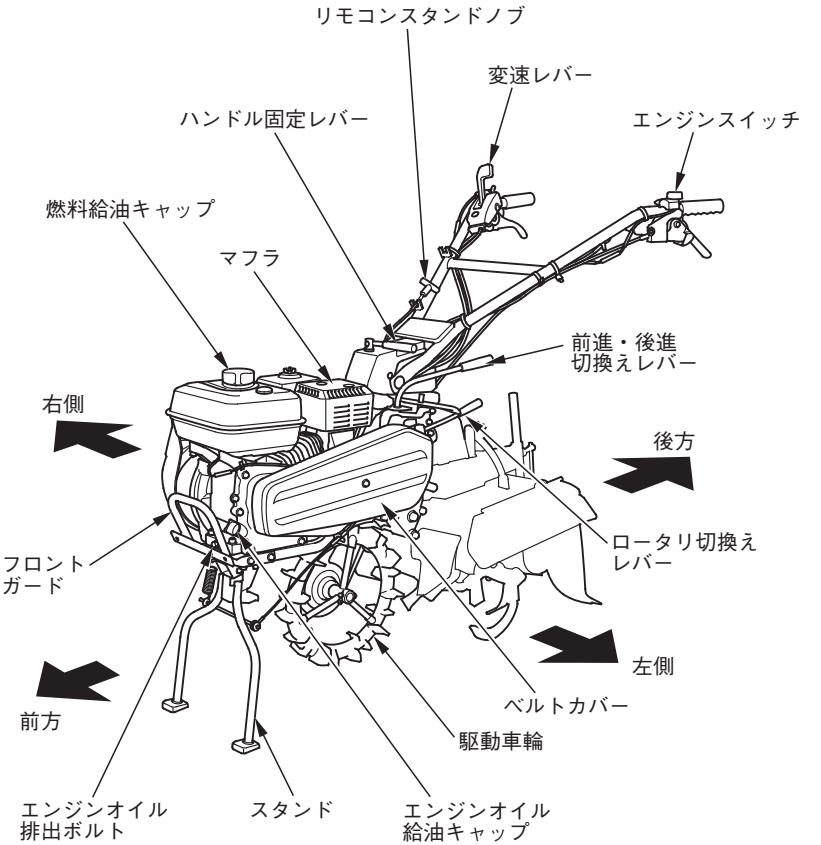
安全鑑定型式名
ホンダ FR716

安全鑑定証票



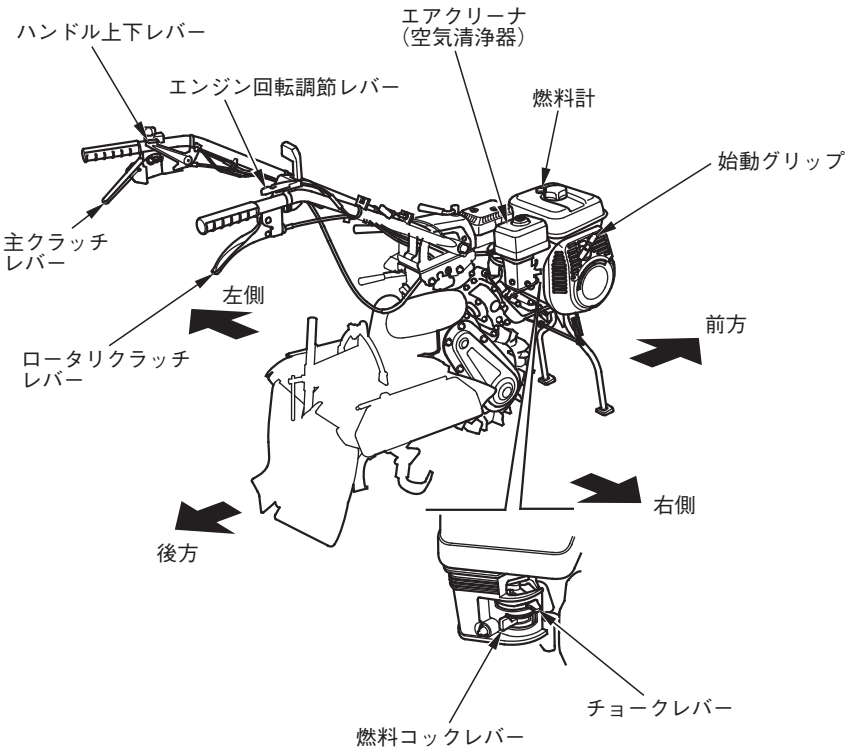
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

《JSタイプ》



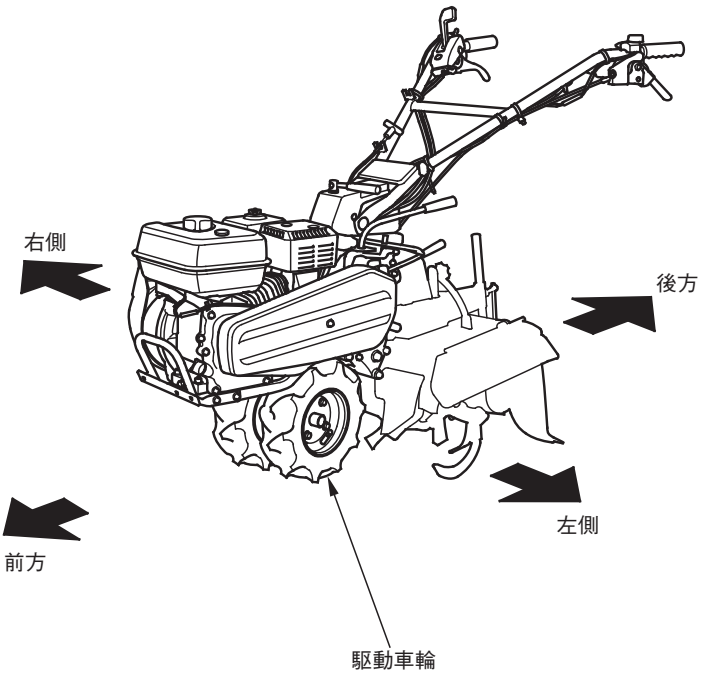
※矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

《JSタイプ》



※矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

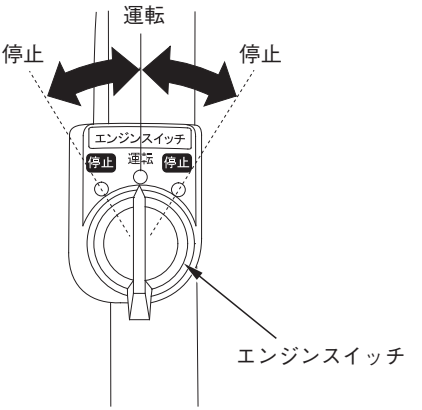
《JDタイプ》



※矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。
各部の名称はJSタイプを参照してください。なおスタンドはありません。

エンジンスイッチ

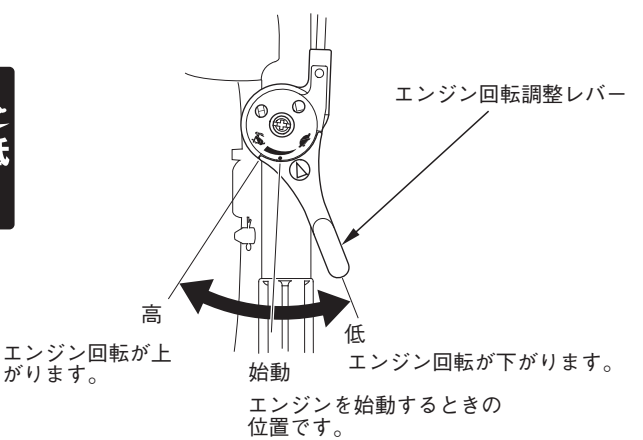
エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



エンジン回転調整レバー

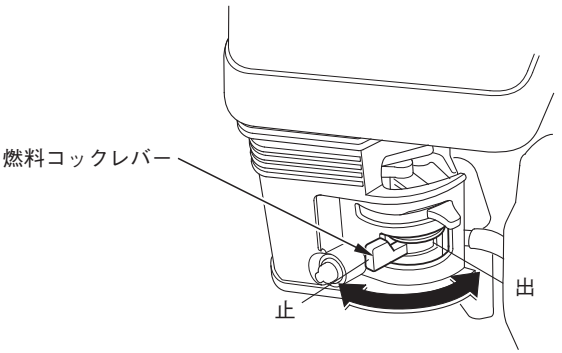
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。





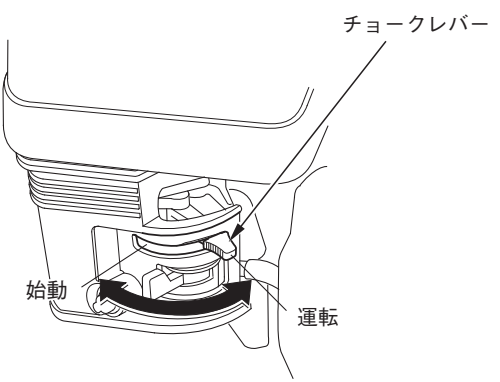
燃料コックレバー

燃料コックレバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



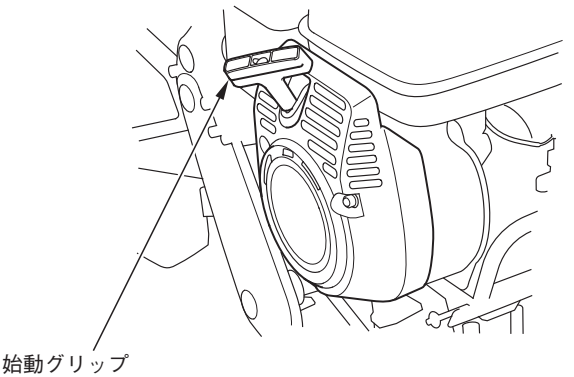
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



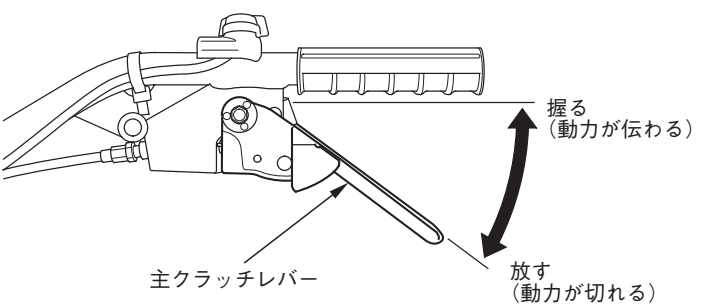
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



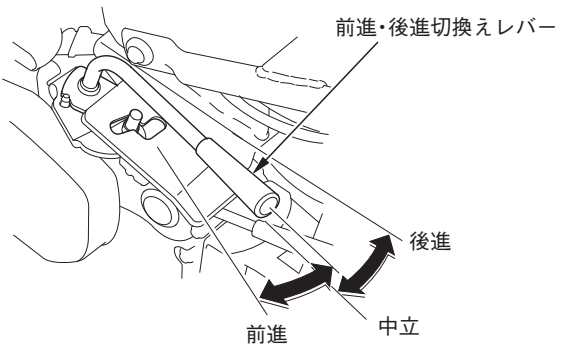
主クラッチレバー

主クラッチは、車輪への動力を断続する装置です。
主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



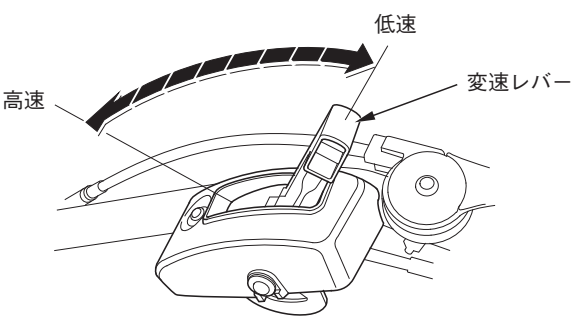
前進･後進切換えレバー

前進、後進の切換えを行うときに操作します。
前進･後進切換えレバーには、正転と反転の向きがあります。ハンドルの向き(正転･反転)に合わせてください。(35頁参照)
・ハンドルが正転の場合、前進･後進切換えレバーは正転の向き
・ハンドルが反転の場合、前進･後進切換えレバーは反転の向き



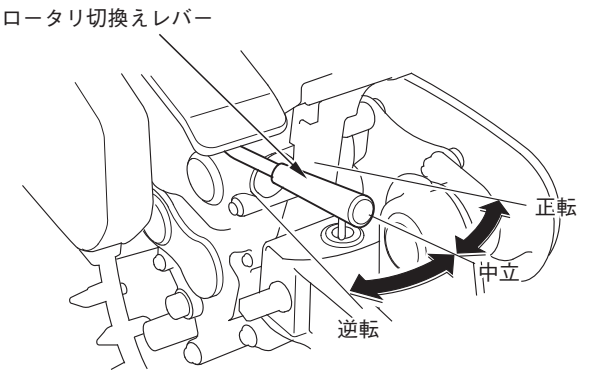
変速レバー

前進、後進の速度を変えるときに操作します。無段階(細かいノッチがついています)に調整することができます。
走行中に操作することもできます。操作時に主クラッチレバーを操作する必要はありません。



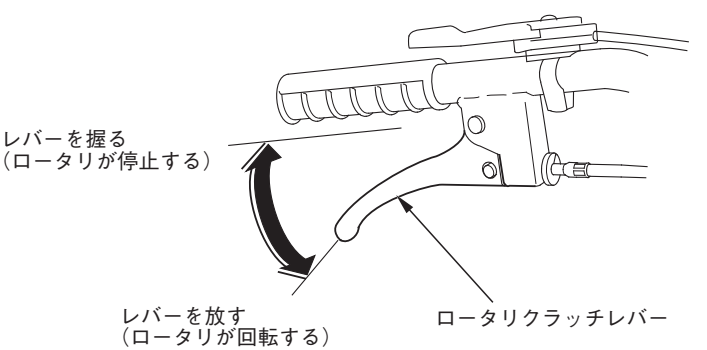
ロータリ切換えレバー

ロータリに動力を伝えるときに操作します。
ロータリ切換えレバー操作により“正転”、“中立”、“逆転”に切換えることができます。(操作のしかたは43頁参照)



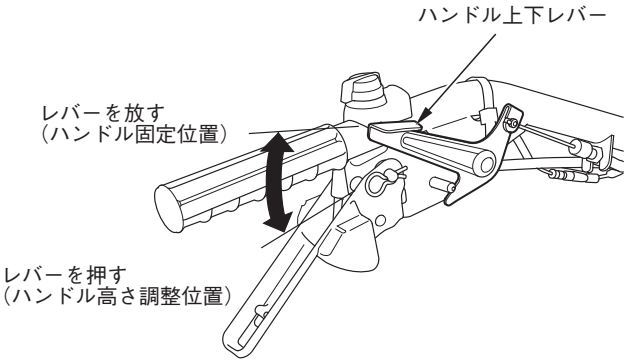
ロータリクラッチレバー

ロータリ軸への動力を一時的に断接するときに操作します。



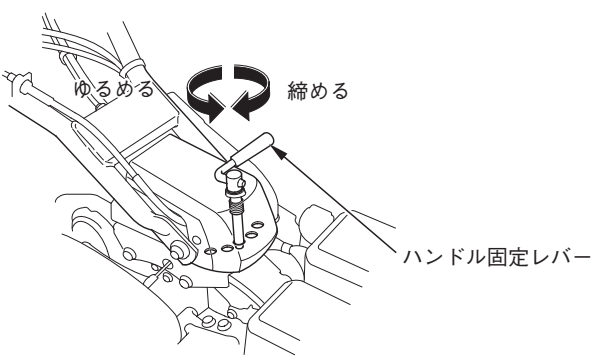
ハンドル上下レバー

ハンドルの高さを調整する時に操作します。
ハンドルの高さは 4 段階に調整できます。作業内容や運転者の身長に合わせてください。(調整は33頁参照)



ハンドル固定レバー

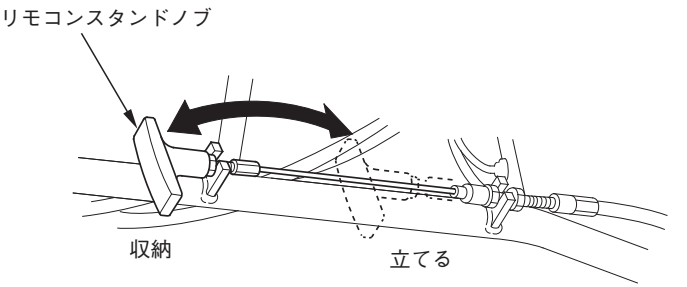
ハンドルの角度を調整するときに操作します。
ハンドルの角度は、ハンドルが正転のときは中央および左右に各 2 段階(16°、32°)、ハンドルを反転したときは中央および左右に各 1 段階(16°)に調整できます。(調整は34頁参照)



リモコンスタンドノブ（JSタイプ）

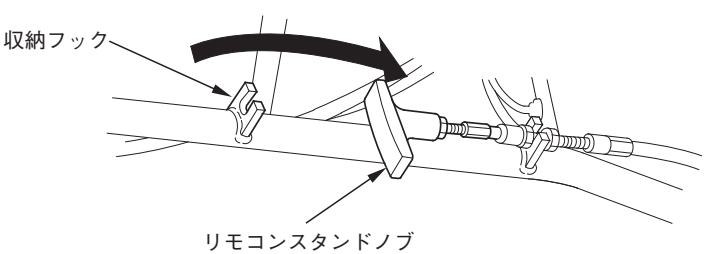
スタンドを立てるとき、収納するときに操作します。

立てる：スタンドが出ます。
収納：スタンドを収納します。

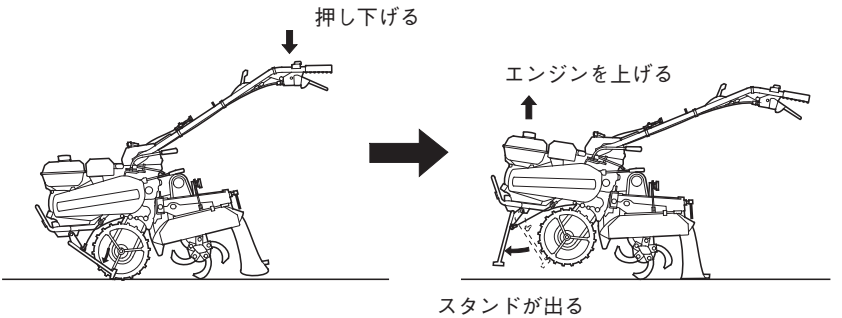


スタンドの立てかた

1. ハンドル高さを最上段にします。
2. リモコンスタンドノブを収納フックから外します。



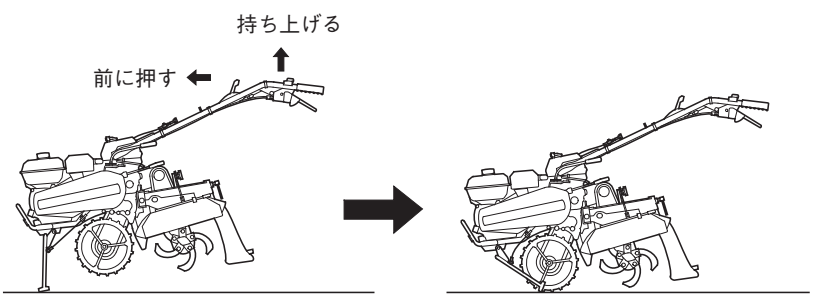
3. ロータリを支点にハンドルを押し下げ、エンジンを上げます。



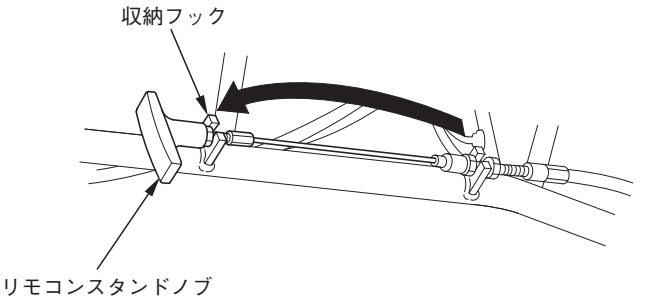
4. スタンドが出たことを確認してエンジンを下げ本機を立ててください。

スタンドの収納

1. ハンドル高さを最下段にします。
2. ロータリを持ち上げ、本機を前方に押し駆動輪を接地させます。



3. リモコンスタンドノブを引いて収納フックに掛けてください。

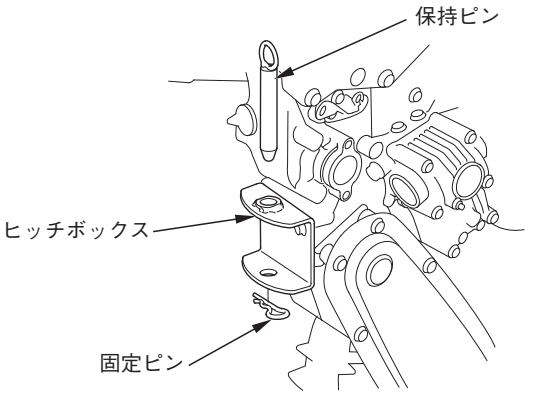


取扱いのポイント

- スタンドを立てた状態で、無理にリモコンスタンドノブを引っ張らないでください。ワイヤ切れや、本機の転倒の原因になる可能性があります。
- スタンドを収納した状態で足や手で無理にスタンドを立てないでください。ワイヤ切れや、スタンドの変形の原因になる可能性があります。

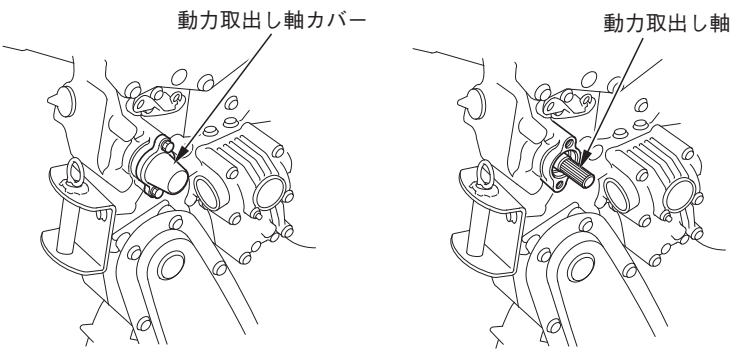
ヒッチボックス(作業機取付け部)

作業機を取り付けるところです。
取付けは保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。



動力取出し軸

動力を取出すときに使用します。



⚠警告

動力取出し軸を使わないときは常に動力取出し軸カバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたり、ケガをするおそれがあります。

作業前に点検･調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり‥‥‥‥‥燃料の量(25、26頁参照)、オイルの量(27頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動‥‥‥‥‥レバーの遊び量(63～67頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- タイヤの空気圧‥‥‥‥タイヤの空気圧は適正ですか。(31頁参照)
- 各部の締付け‥‥‥‥‥ハンドル固定レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類‥‥‥被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止‥エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は36～42頁参照)
  エンジンスイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は50～53頁参照)

- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

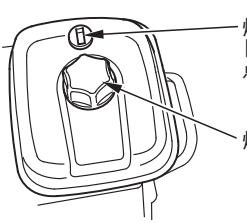
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

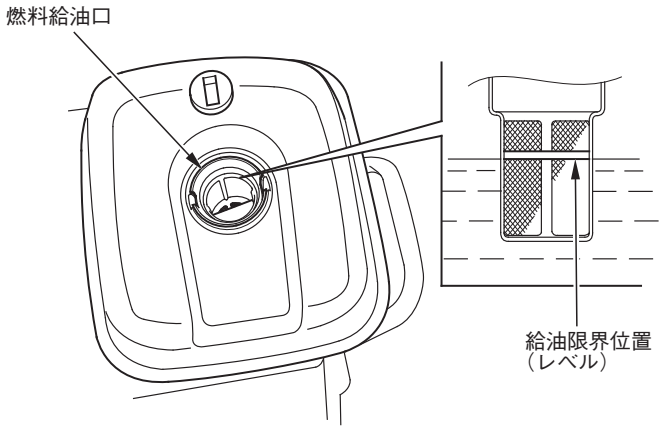
点検

平坦な場所にスタンドを接地状態で停車します。
燃料給油キャップを外して燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



燃料計
目安として使用してください。
点検は給油キャップを外し給油口で行ってください。

燃料給油キャップ



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

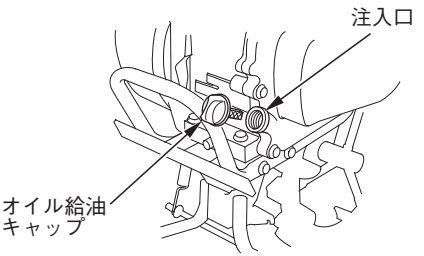
取扱いのポイント

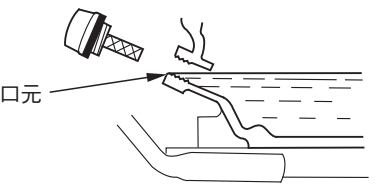
- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

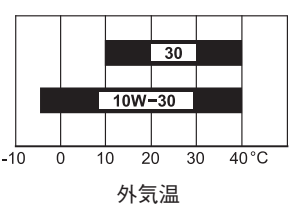




補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換は56、57 頁参照)
  補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



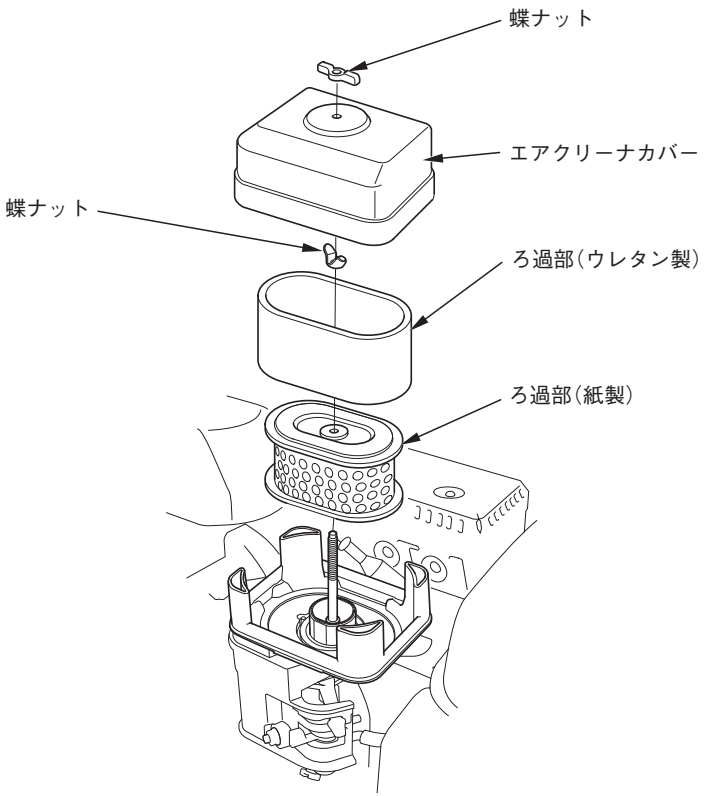
エンジンオイル量： 0.6 L

取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃方法は58頁参照)
汚れているとエンジン性能が低下します。



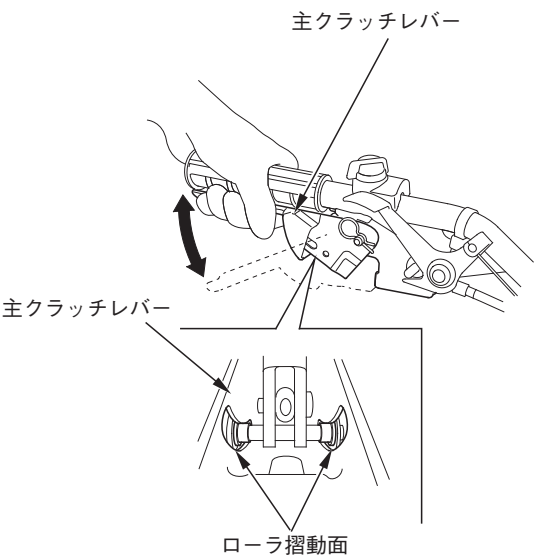
主クラッチレバーの作動点検

主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。
主クラッチレバーのローラ摺動面に異物(ゴミ、砂、土、小枝など)がないことを確認します。

スムーズに動かない場合、異物がある場合は、清掃してください。(清掃は71､72 頁参照)

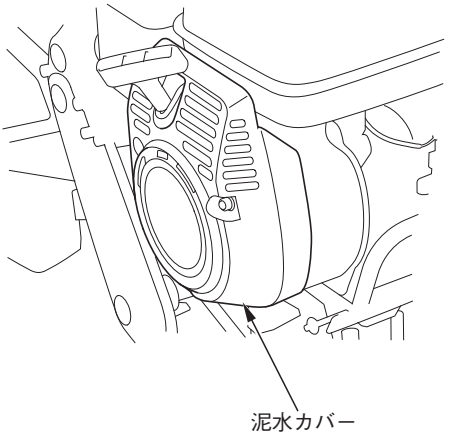
取扱いのポイント

オイル、洗浄剤などを塗布したり吹付けないでください。オイル、洗浄剤などに異物が付着することがあります。



泥水カバーの点検

泥水カバー上部より目視にて点検します。
草や土が入っている場合は清掃してください。(清掃のしかた70頁参照)



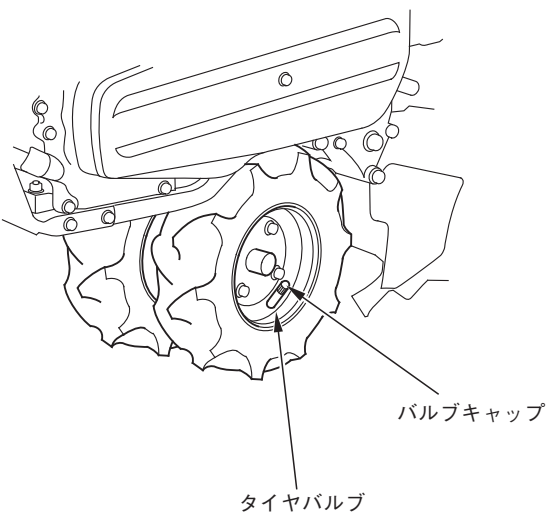
タイヤ空気圧の点検（JDタイプのみ）

点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低過ぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

補給

バルブキャップを取外し、タイヤバルブより空気を注入します。
タイヤサイズ：3.50−6
標準空気圧：137 kPa (1.4 kgf/cm^2)



駆動車輪取付けピンの点検

保持ピン、固定ピンが確実に取付けられているか点検します。

駆動車輪の取外し

⚠注意

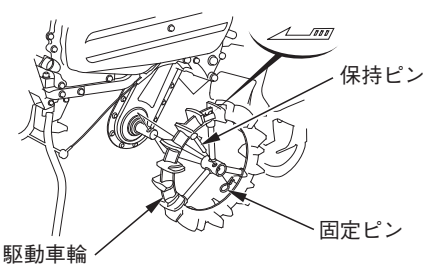
駆動車輪を取外すときは、２人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

固定ピンを外し、保持ピンを抜いて駆動車輪を取外します。

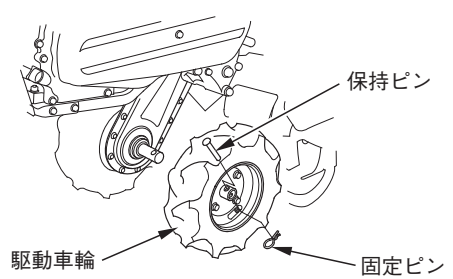
・本機は変速機の中に衝撃を緩衝する装置(リリーフバルブ)が内蔵されています。保持ピンには衝撃を緩衝する機能はありません。

《JSタイプ》

車輪を組付けるときは、車輪についている矢印が前進回転方向へ向くように取付けます。



《JDタイプ》



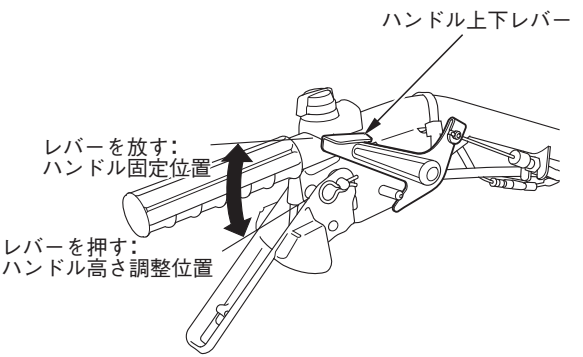
ハンドルの調整(高さ、角度、反転)

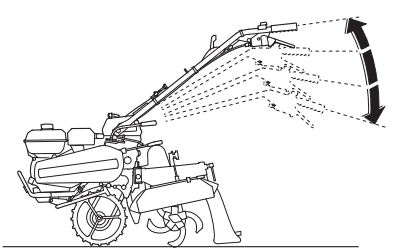
ハンドル高さの調整(上下)

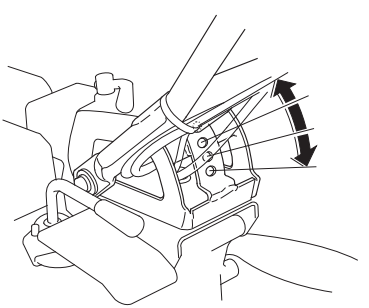
ハンドル高さは4段階に調整できます。ハンドル高さは作業しやすい位置に調整してください。

《調整》

1. ハンドル上下レバーを押下げて、ハンドル高さを変更します。
2. ハンドル上下レバーから手を放します。
3. ハンドルを軽く上下に動かし、ハンドルが固定されているか確認してください。
   “カチリ”と音がして固定されたことを確認してください。

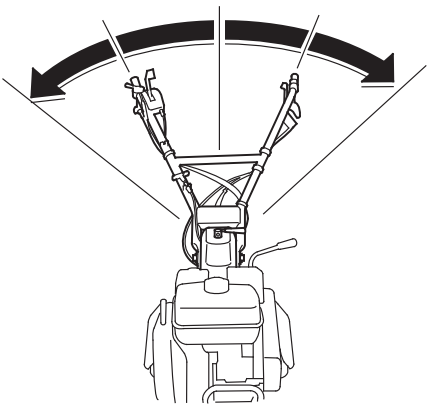




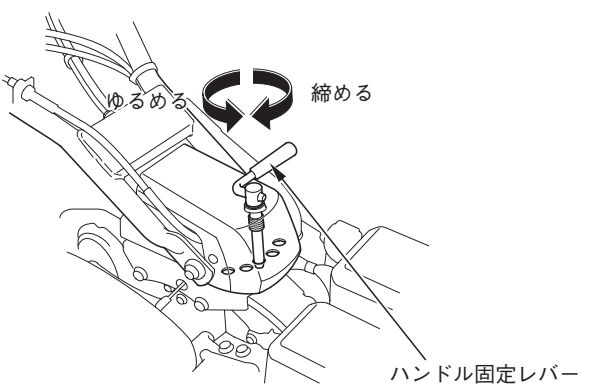


ハンドル角度の調整(左右)

作業内容により、ハンドルの角度は、ハンドルが正転のときは5段階(中央、左右それぞれ16°、32°)、ハンドルを反転した場合は3段階(中央、左右16°)に調整することができます。



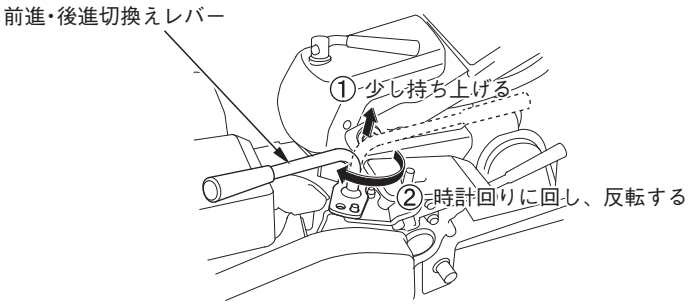
1. ハンドル固定レバーを3～4回転ゆるめて、ハンドル角度を変更します。
2. ハンドル固定レバーを確実に締付けます。



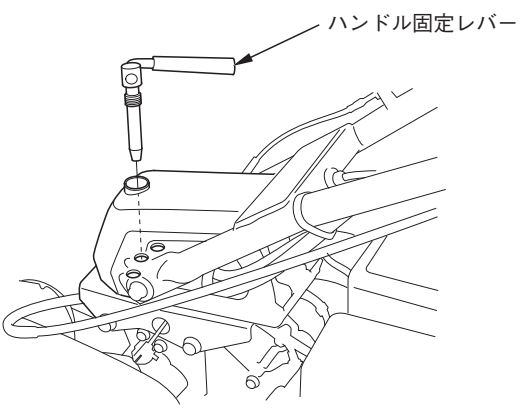
3. ハンドルを軽く左右に動かし、確実に固定されているかを確認してください。

ハンドル反転のしかた

1. 前進･後進切換えレバーを反転の向きにします。
   前進･後進切換えレバーの向き変更は、レバー全体を少し持ち上げ、この状態でレバーを回して行います。



2. ハンドル固定レバーをゆるめて抜取ります。
3. ハンドルを反時計方向(左回り)に回し、作業に合った角度に合わせます。
4. 上からのぞいて穴位置を確認し、ハンドル固定レバーを取付け確実に締付けます。



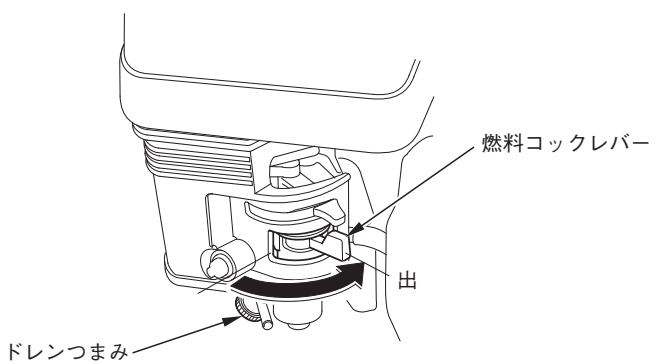
・正転に戻すときは、ハンドルを正転してから、前進･後進切換えレバーを正転の向きに戻してください。

エンジンのかけかた

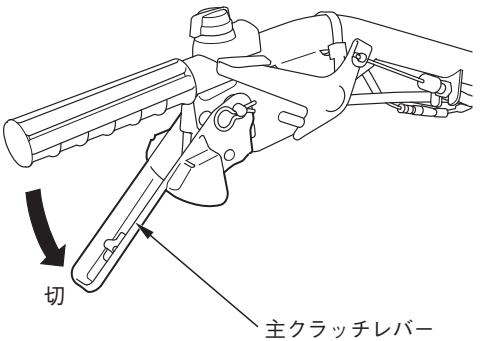
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”、前進・後進切換えレバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチが入っていたり、前進・後進切換えレバーが“中立”以外になっていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

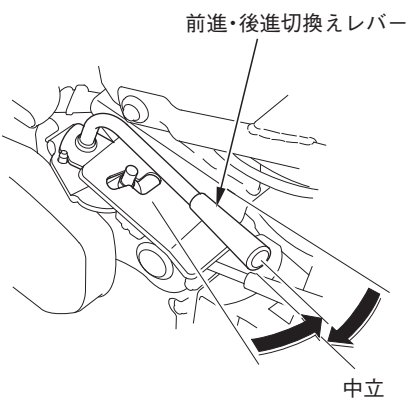
1. 燃料コックレバーを“出”の位置にします。ドレンつまみが確実に締まっているか確認してください。



2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認します。

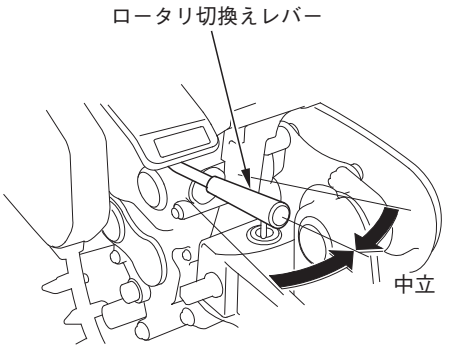


3. 前進･後進切換えレバーが“中立”になっていることを確認してください。



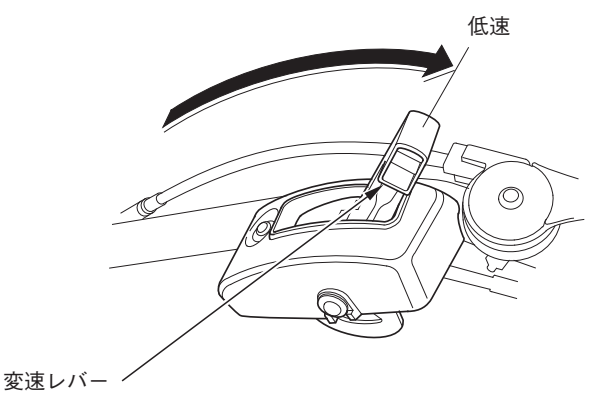


4. ロータリ切換えレバーが**“中立”**になっていることを確認してください。

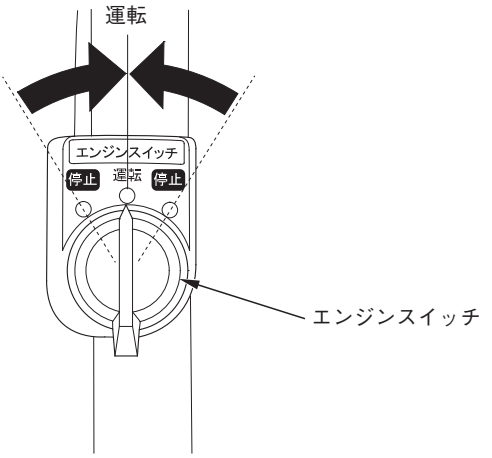




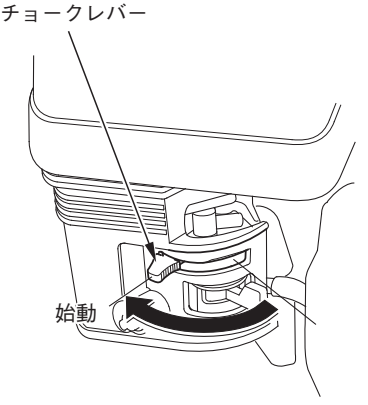
5. 変速レバーが**“低速”**の位置になっていることを確認してください。



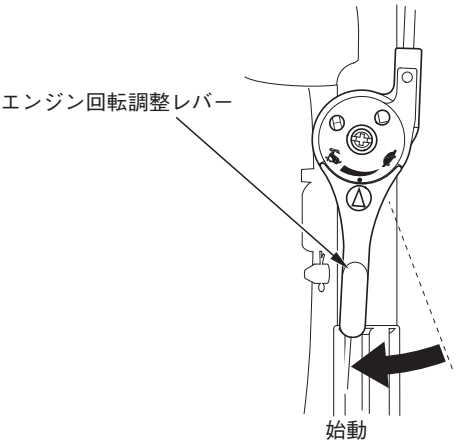
6. エンジンスイッチを**“運転”**の位置にします。



7. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを**“始動”**の位置にします。

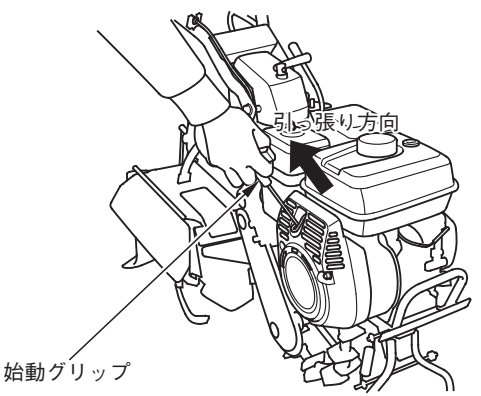


8. エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。





9. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。



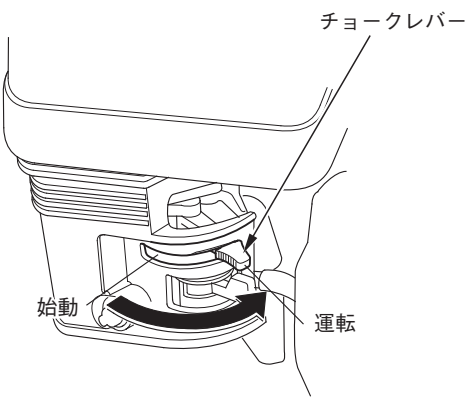
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

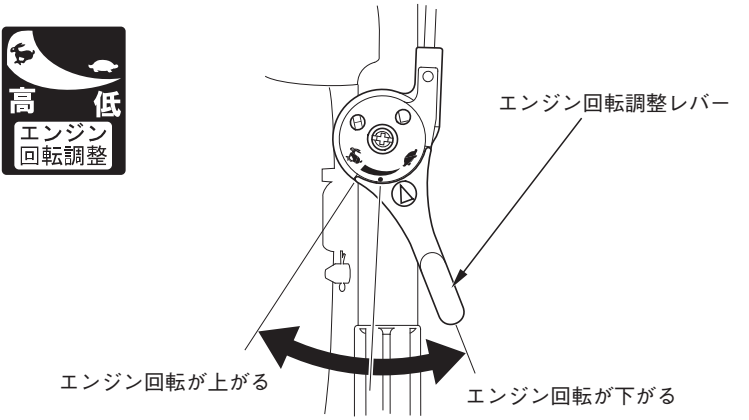
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

10. エンジンが始動します。
11. 2～3分間暖機運転を行います。チョークレバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



12. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

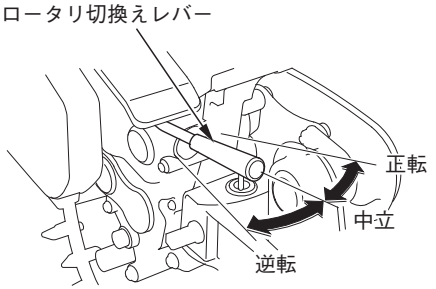
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

動力取出し

ロータリ切換えレバー

ロータリ切換えレバーの操作により、動力取出し軸の回転を**“正転”“中立”“逆転”**に切換えることができます。

正転‥‥‥　動力取出し軸側から見て右(時計方向)に回転します。
　　(ロータリが本機前進時の駆動車輪と同方向に回転します)
中立‥‥‥　回転しません。
逆転‥‥‥　動力取出し軸側から見て左(反時計方向)に回転します。
　　(ロータリが本機前進時の駆動車輪と逆方向に回転します)

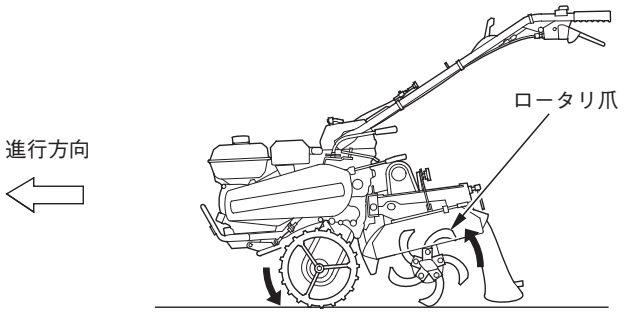




取扱いのポイント

- ロータリ切換えレバーの操作を行うときは、必ず本機の主クラッチレバーを“切”にしてください。
- 操作がスムーズにいかないときは、前進･後進切換えレバーを“中立”にし主クラッチレバーを“入”にして少し動かし、主クラッチを“切”にしてもう一度操作してください。

《正転》

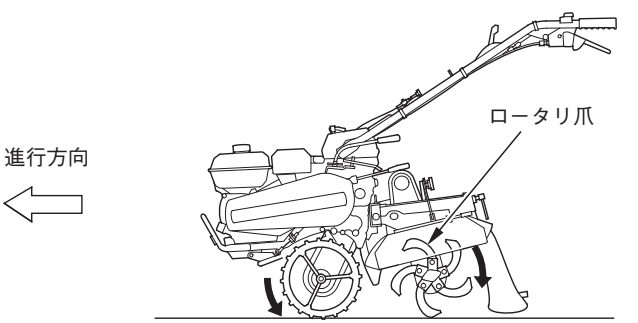


ロータリ切換えレバーを“正転”から“逆転”、“逆転”から“正転”へ切換えて作業を行うときは左右のロータリホルダを入換えてください。（入換えはロータリの取扱説明書20頁を参照してください）

⚠注意

正転作業のとき“逆転”へ、逆転作業のときに“正転”へレバーを切換えないでください。本機が飛び出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

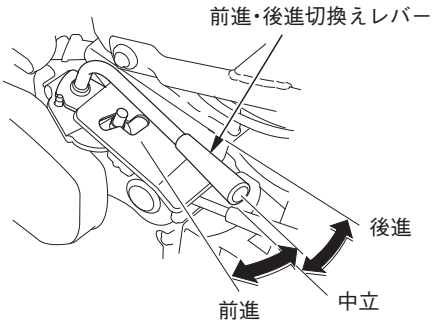
《逆転》



前進、後進

前進･後進切換えレバー

前進、後進の切換えレバーです。





操作のしかた

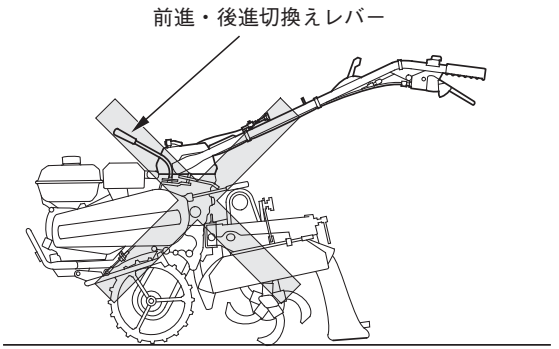
1. 主クラッチレバーを**“切”**にします。
2. ロータリ切換えレバーを、**“中立”**にして、ロータリ爪が完全に止まっていることを確認します。
3. エンジン回転調整レバーを**“低”**の位置にして、エンジンの回転をさげます。
4. 前進･後進切換えレバーを操作します。
5. 進行方向をよく確認してから主クラッチレバーを握ります。

⚠警告

後進時、ハンドルがはね上り、爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にしてください。
- ハンドルが正転の位置で、前進･後進切換えレバーを反転しての作業は行わないでください。

ハンドルが正転の位置で前進･後進切換えレバーが後進に入っているとロータリ切換えレバーが入らない、またロータリ切換えレバーが入っていると前進･後進切換えレバーが操作できない構造になっています。しかし、前進･後進切換えレバーを反転させるとこの機構が働かなくなり大変危険です。
ハンドルを反転したとき以外は必ず前進･後進切換えレバーを正転方向にしておいてください。



運転

主クラッチレバー

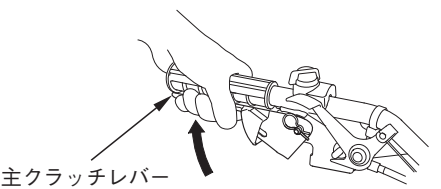
主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

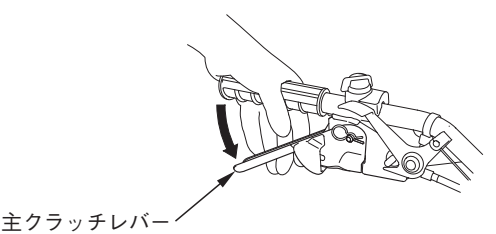
走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



取扱いのポイント

主クラッチレバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

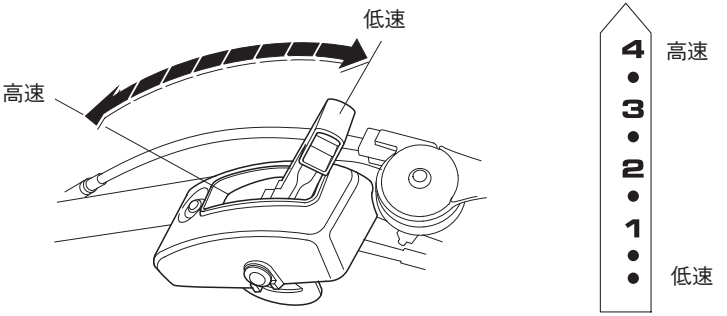
変速レバー

前進、後進の速度を無段階(細かいノッチが付いています)に調整することができます。

走行中に操作することもできます。主クラッチレバーを切る必要はありません。

変速レバーを最低速の位置にすると、主クラッチレバーを握っても上り坂や、不整地などでは本機が動かない場合があります。

このようなときはレバーを高速側に動かしてください。



《作業速度》

作物やほ場にあわせて適切な作業速度を選択してください。

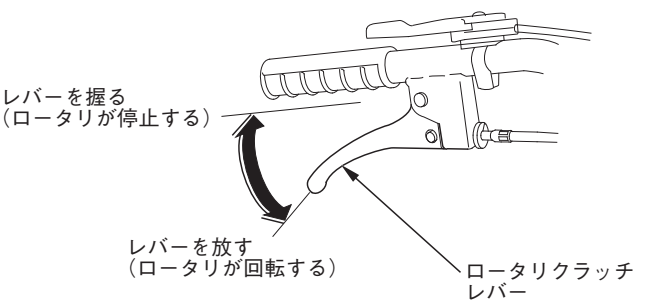
表は標準的な作業速度を示しています。作業の目安にしてください。

前進・後進切換えレバー	前進	ハンドル回転時 後進	ハンドル回転時 前進
変速レバー	4 • 3 • 2 • 1 • •		4 • 3 • 2 • 1 • •
車速(m/s)	0.9 0.8 0.7 0.6 0.5 0.4 0.3 0.2 0.1		0.6 0.5 0.4 0.3 0.2 0.1
中耕 中耕培土			
覆　土			
溝掘り			
うね立て 同時マルチ			
堀取り (ねぎ)			

エンジン回転調整レバー
エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。



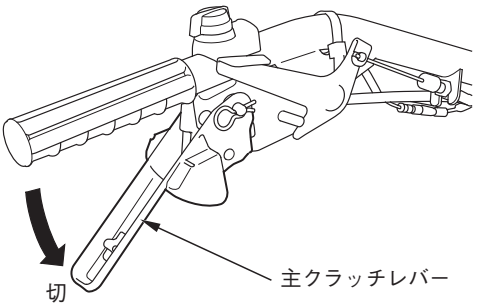
ロータリクラッチレバー
ロータリ軸への動力を一時的に断接するときに操作します。



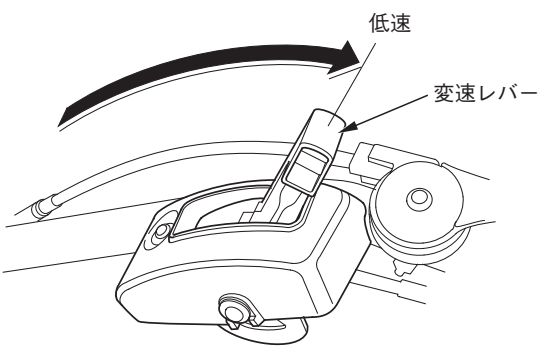
⚠注意
ほ場での移動など少し長い移動のときはロータリクラッチレバーを使用しないで、ロータリ切換えレバーを“中立”にして移動してください。移動中、回転している爪に異物が当たって本機を損傷させたり、とび散った異物により、ケガをするおそれがあります。

エンジンのとめかた

1. 主クラッチレバーを放して**“切”**にします。

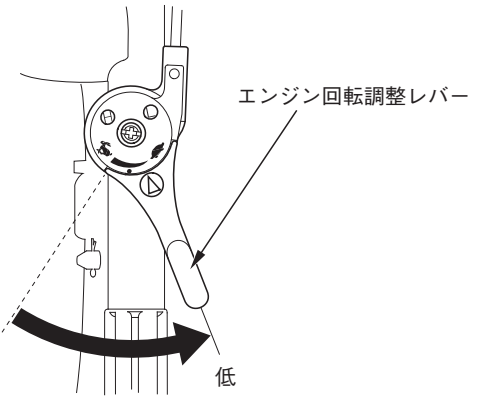


2. 変速レバーを**“低速”**の位置にします。

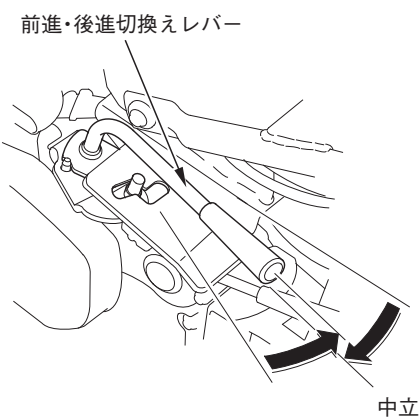


3. エンジン回転調整レバーを“低”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



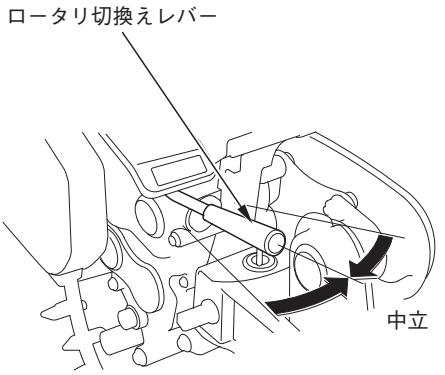


4. 前進･後進切換えレバーを“中立”にします。



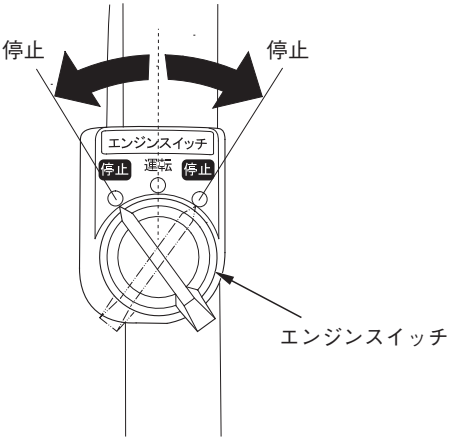


5. ロータリ切換えレバーを“中立”の位置にします。

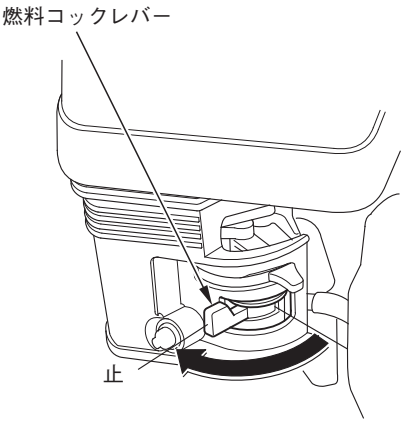




6. エンジンスイッチを“停止”に合わせます。



7. 燃料コックレバーを“止”に合わせます。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検－補給		○					27
	交換	○		○		○		56
エアクリーナ	点検		○					28
	清掃				○(2)			58
	交換						○	58
本機周りの点検	点検		○					24
レバー類の作動	点検		○					24
ロータリクラッチレバーの作動	点検		○					－
主クラッチ	点検、清掃		○					29,71
レバーの作動	グリース塗布	○(3)(6)						－
各部の締付け	点検		○					24
車軸取付けピン、保持ピン	点検		○					32
配線、ケーブル類	点検		○					24
エンジンの始動、停止	点検		○					24
泥水カバー	点検、清掃		○					30,70
タイヤ空気圧(JDタイプ)	点検		○					31
変速機オイル	点検	○		○			○	68
	交換	2年毎(3)						－
車速調整ケーブル	点検、調整						○(3)	－
ロータリクラッチケーブル	点検、調整						○	67
ハンドル上下レバーケーブル	点検、調整						○	64
主クラッチケーブル	点検、調整			○(3)		○(3)		－
リモコンスタンドノブケーブル(JSタイプ)	点検、調整						○	65
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整						○	63

点検時期（1） 点検項目		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
駆動ベルト	点検、調整			○(3)(5)		○(3)(5)		－
燃料ろ過カップ	清掃					○		62
点火プラグ	点検、調整					○		60
	交換						○	60
アイドル回転	点検、調整						○(3)	－
各部の防錆、給油	塗布、給油	○(3)						－
吸入、排気弁すき間	点検、調整						○(3)	－
燃焼室	清掃	500時間運転毎(3)(4)						－
燃料タンク及びフィルタ	清掃	○(3)					○(3)	－
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)						－

(1)点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2)ホコリの多い所(逆転土揚げ等)で使用した場合、清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(3)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店またはサービス店で実施してください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(5)ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
(6)長期間(30日以上)保管する場合は、錆防止のため潤滑剤(グリース)を主クラッチレバー周りの摺動部へ塗布してください。

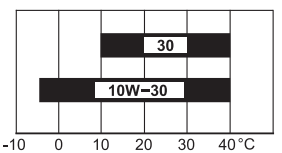
⚠警告
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

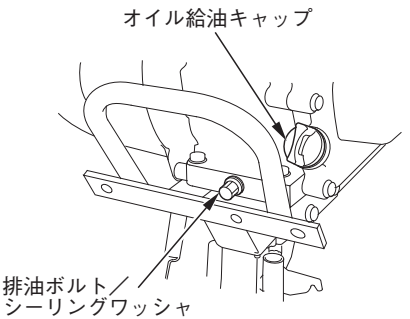
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

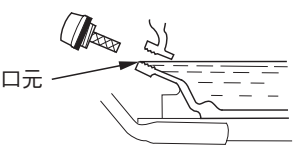


《エンジンオイル量》 0.6 L

《交換のしかた》

1. エンジンを水平にしてオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャを使用し、確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。





⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

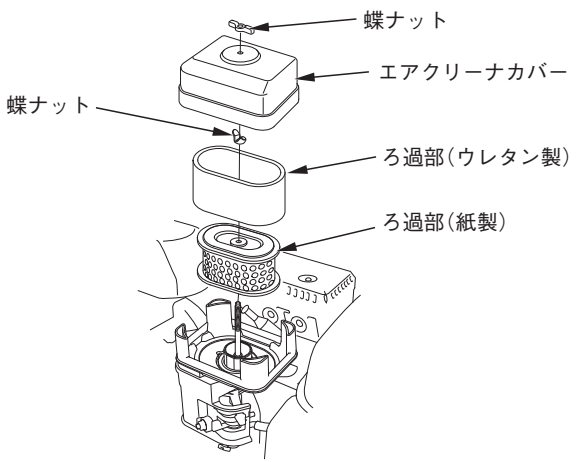
エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. 蝶ナット2個を外し、図のようにエアクリーナカバー、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞って取付けます。
   ・Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。



3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. ろ過部、エアクリーナカバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- ろ過部(ウレタン)にオイルをつけすぎないように注意してください。

点火プラグの点検･調整･交換

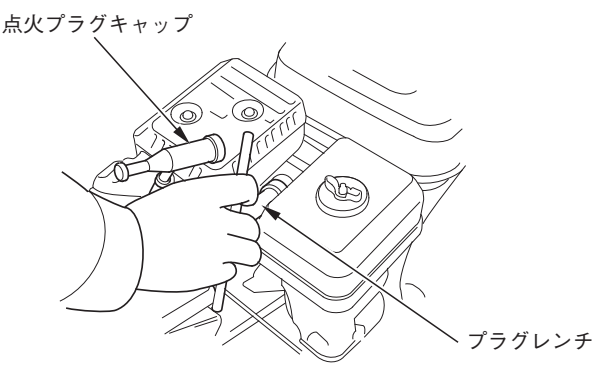
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

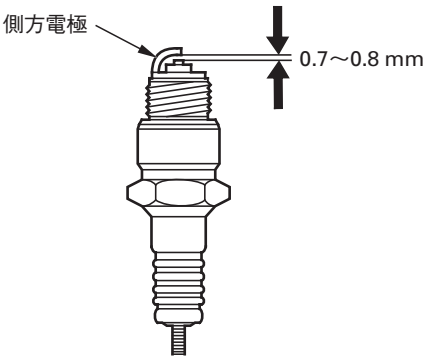
エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検のしかた》

1. エンジンを停止します。
2. 点火プラグキャップを取外します。
3. プラグレンチで点火プラグを取外します。
4. 点火プラグを点検します。汚れている場合は清掃してください。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



《調整のしかた》
側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7－0.8 mm
《標準プラグ》
BP5ES(NGK)　W16EP-U(DENSO)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検･調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

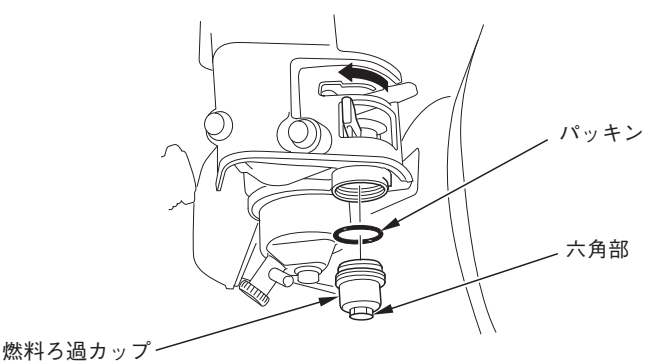
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーを“止”にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元通りに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コックレバーを“出”にし燃料の漏れのないことを確認します。

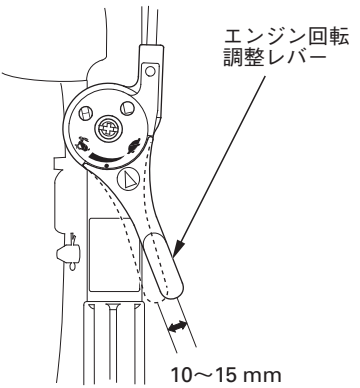


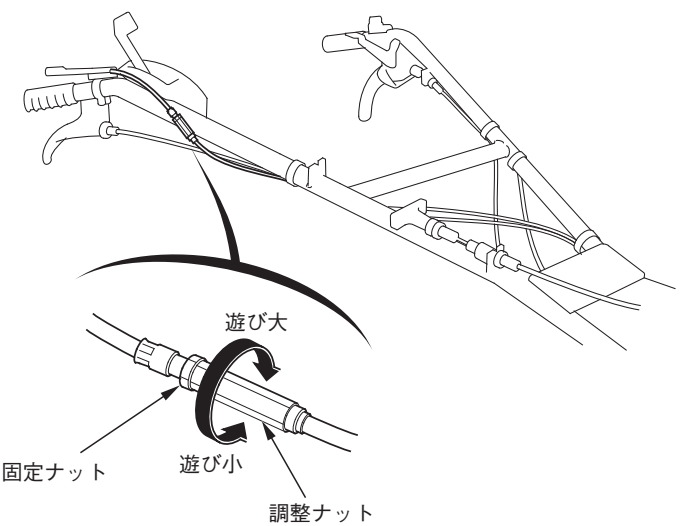
エンジン回転調整ケーブルの点検・調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《点検、調整のしかた》

1. ハンドル高さを下から 2 段目にします。
2. エンジン回転調整レバーを“低”の位置にし、レバー先端の遊びを点検します。
   レバー先端の遊び：10 ～ 15 mm
3. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行ないます。
4. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





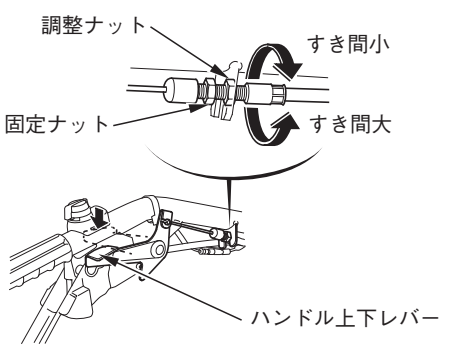
ハンドル上下レバーケーブルの点検・調整

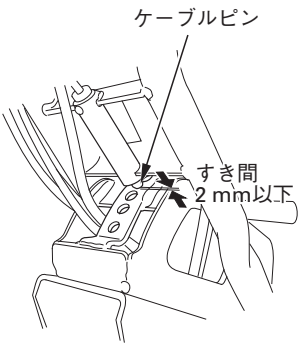
⚠注意

ハンドル上下レバーケーブルの調整が完全でないと、作業中にハンドルが動き思わぬ事故になるおそれがあります。

《点検、調整のしかた》

1. ハンドル上下レバーを押下げた状態で、ハンドルが上下にスムーズに動くことを確認します。上下全域で確認してください。
2. ハンドルがスムーズに動かない場合は、ケーブルピン先端のすき間が**2 mm以下**になるように調節します。
3. 調整は固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行います。





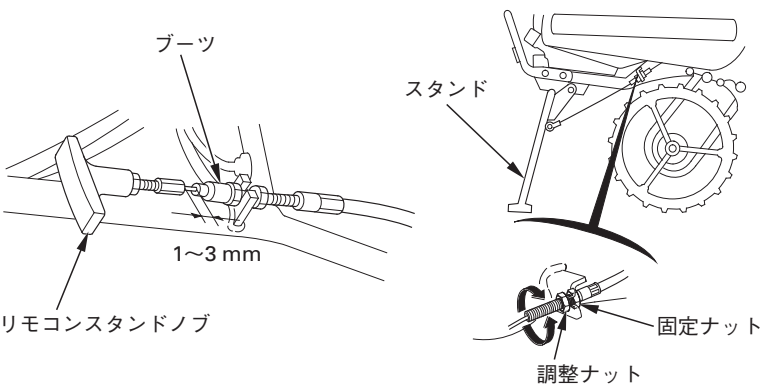
4. 調整後、固定ナットを確実に締付け、下記項目を 4 段階全ての位置で確認してください。
   ・ハンドル上下レバーから手を離し、ハンドルが確実に固定すること。
   ・ハンドル上下レバーを押下げ、ピン先端が固定穴から抜けること。

リモコンスタンドノブケーブルの点検・調整（JSタイプ）

リモコンスタンドノブケーブルの調整が正しくないと、スタンドの作動が悪くなります。

《点検、調整のしかた》

1. ハンドルを正転でスタンドを立てた状態にします。
2. リモコンスタンドノブのブーツ先端とケーブルエンドの間が1～3 mmになっているか点検します。
3. 調整はスタンド側の固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行ってください。
4. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



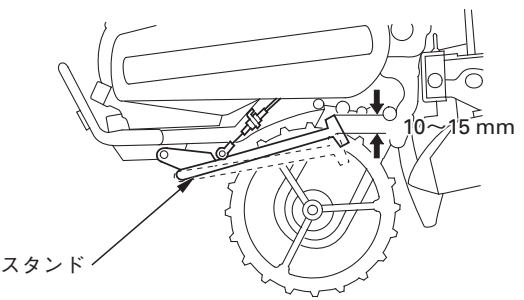
5. ハンドルを反転して、ワイヤに突張りが無いか確認します。ワイヤが突張っている場合は再度調整してください。

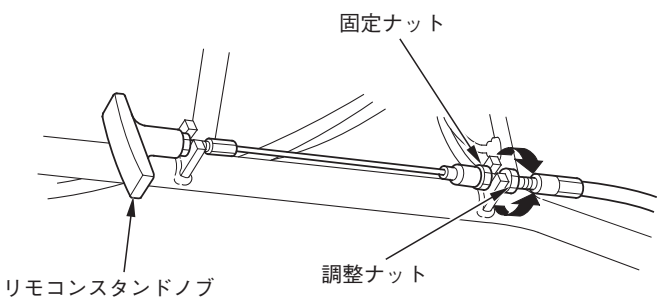
6. スタンドを収納した状態にします。

⚠注意

スタンドを収納した状態はとても不安定です。スタンドの遊びを確認する時は、本機を他の人に支えてもらうか、固定してから行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

7. スタンドの遊びが、先端で10～15 mmになっているか点検します。
8. 調整はハンドル側の固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行ってください。
9. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





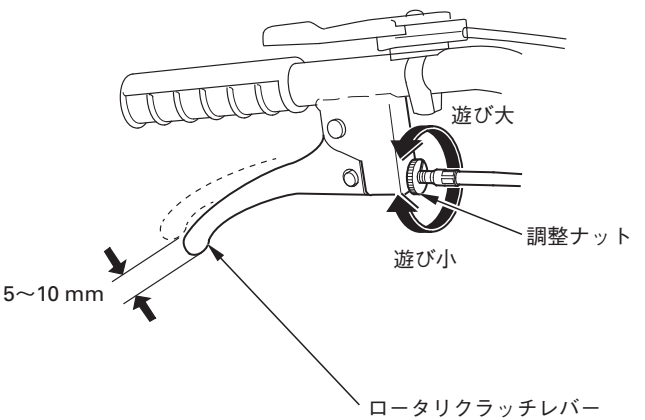
10. スタンドの出し入れをして作動を確認してください。

ロータリクラッチケーブルの点検・調整

ロータリクラッチケーブルが正しく調整されていないとロータリクラッチの切れが悪くなります。

《点検、調整のしかた》

1. ロータリクラッチレバーの遊びが、レバー先端で5～10 mmになっているか点検します。
2. 調整は、調整ナットを回して行います。

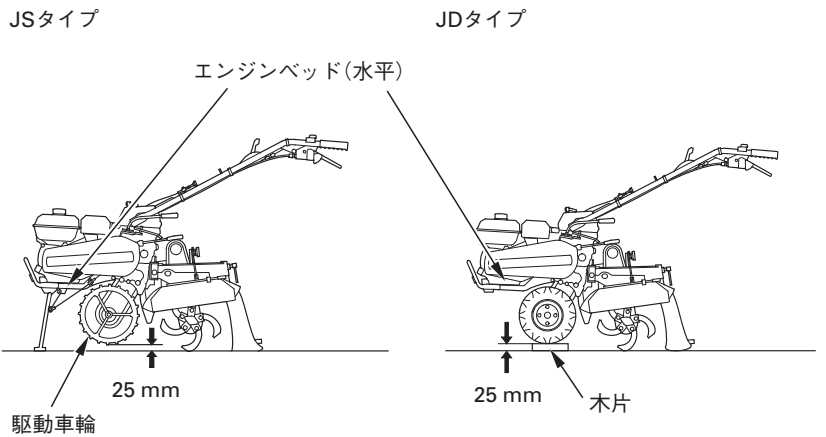


変速機オイルの点検

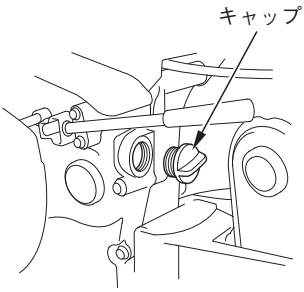
変速機オイルの量が少ないと変速機各部の摩耗を早めます。定期的に点検してください。

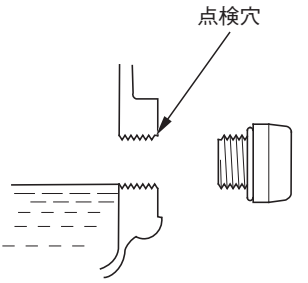
《点検のしかた》

1. 平坦な場所で本機のエンジンベッドが水平になるようにします。
   ・JSタイプ：スタンドを立て、ロータリ爪が接地した状態。駆動車輪と地面の間が25 mmになります。
   ・JDタイプ：タイヤの下に25 mmの木片等を入れロータリ爪が接地した状態。



2. 点検穴のキャップを外し、口元までオイルがあるか確認します。



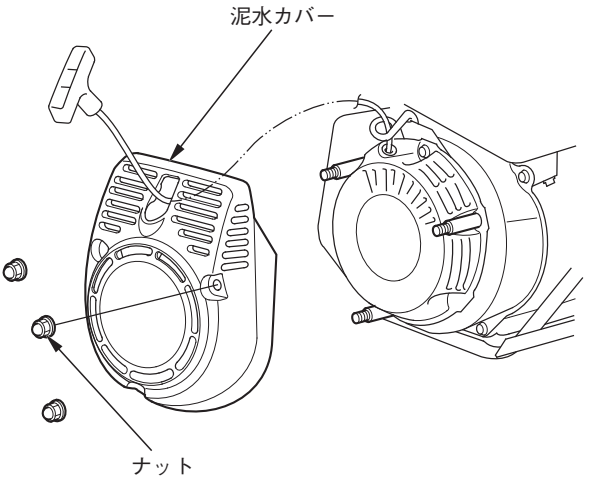


取扱いのポイント

キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

泥水カバーの清掃

ナット3個を外して泥水カバーを取外し、カバー内部を清掃します。
清掃後、泥水カバーを取付けナットを確実に締付けます。



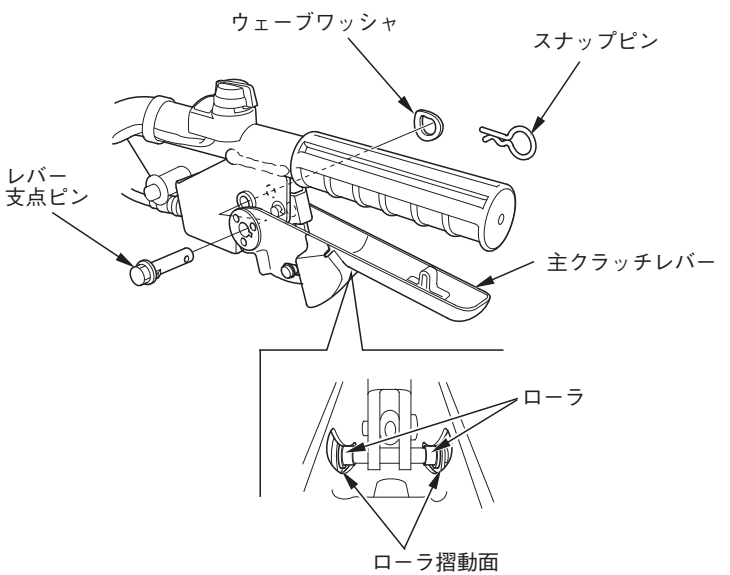
主クラッチレバーの清掃

「レバーのローラ摺動面清掃」「異物の除去」は、主クラッチレバーを取外して行います。

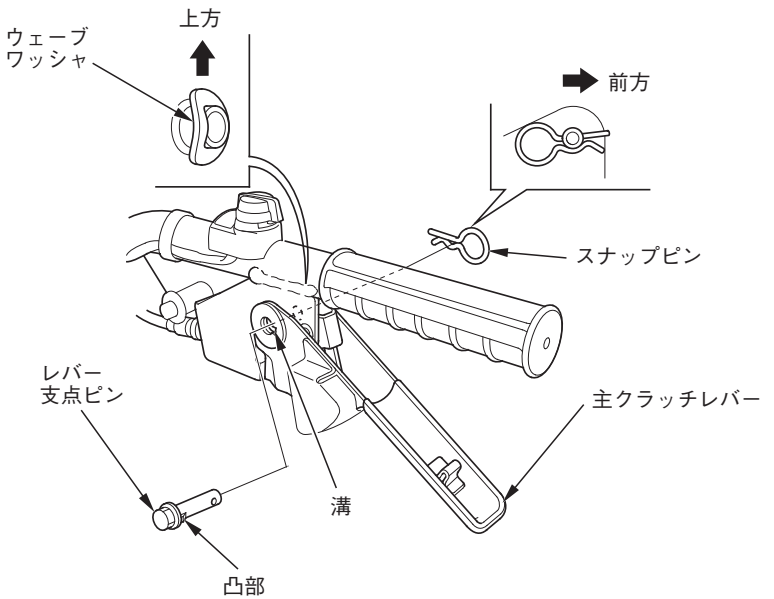
取扱いのポイント

主クラッチレバーの取外し時、ウェーブワッシャの落下に注意してください。ウェーブワッシャは、主クラッチレバー右側と取付け部との間にあります。

1. スナップピンをレバー支点ピンから引抜きます。
2. 主クラッチレバーを保持しながら、レバー支点ピンを抜取ります。主クラッチレバーとウェーブワッシャを取外します。
3. 異物がある場合、取除きます。
   主クラッチレバーのローラ摺動面の汚れをウエス等で拭取ります。



4. ウェーブワッシャの表裏と方向を図のようにします。この状態で主クラッチレバーを取付部に合わせて、レバー支点ピンを差込みます。
5. レバー支点ピンの凸部を主クラッチレバーの溝に合わせ、スナップピンを図の向きに差込みます。



6. 主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。スムーズに動かない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にて整備してください。

取扱いのポイント

オイル、洗浄剤などを塗布したり吹付けないでください。オイル、洗浄剤などに異物が付着することがあります。

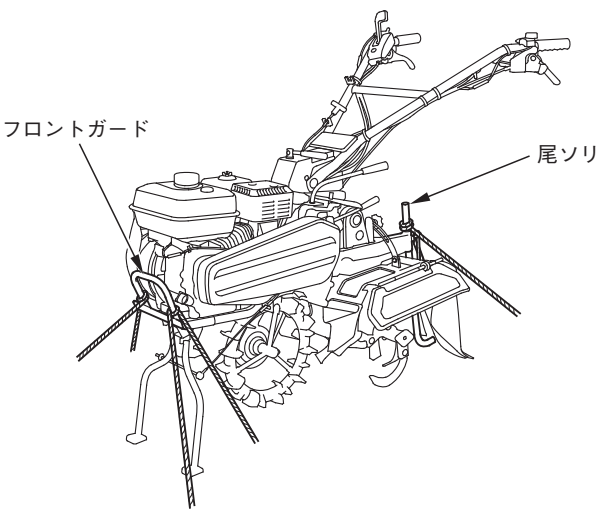
車への積載

ロープ固定位置

ロープなどで本機を図のように固定します。
ロータリを取付けた状態で、スタンドを立て、尾ソリを接地させた状態で固定してください。

取扱いのポイント

指定以外の場所にロープをかけたり、本機が変形するような過大な力でロープ等を締付けないでください。



長期間使用しないときの手入れ

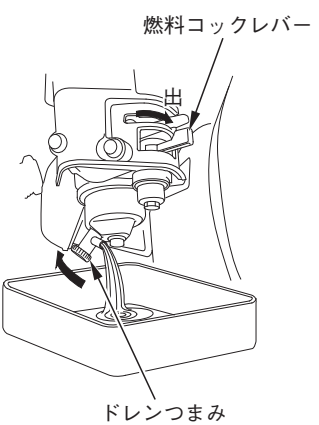
長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

《抜きかた》
1) 燃料コックレバーを“出”にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(燃料排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。
3) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コックレバーを“止”にします。



2. エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は58頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（36～42頁参照）
2. ガソリンはありますか?（25、26頁参照）
3. エンジンオイルは注入口、口元までありますか?（27頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（60頁参照）

・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

主 要 諸 元

名称		FR716	
型式		ホンダ FR716	
区分		JS	JD
全長		1,405 mm	
全幅		640 mm	
全高		955 mm	950 mm
全装備質量［重量］		52 kg	55 kg
エンジン	名称	GX200	
	形式	空冷4ストローク傾斜型ガソリンエンジン(OHV)	
	総排気量	196 cm^3	
	連続定格出力／回転速度	3.7 kW (5.0 PS)/3,400 rpm	
	最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊1）	4.1 kW (5.6 PS)/3,600 rpm	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	2.6 L ＊2	
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火	
	始動方式	リコイルスタータ	
	エンジンオイル容量	0.6 L	
ハンドル高さ調整		4 段階、正: 680～1045 mm、逆: 740～1095 mm	
ハンドルスイング		正: 左右 16°および32°、逆: 左右 16°	
タイヤサイズ		330－80A－007	3.50－6
ベルト種類・サイズ		W600 SB 38″	
主クラッチ		ベルトテンション式	
変速機	前後進切換え	前進 1 段、後進 1 段	
	変速機形式	HST	
	変速段数	無段変速（クリック付き）	

＊1：ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊2：スタンドとロータリが水平面に接地した状態を基準とする。

諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付けかた

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

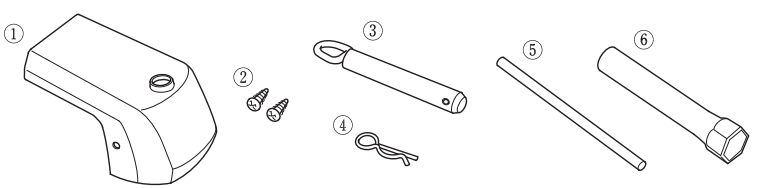
⚠注意

取付け作業は必ず手袋を着用して2人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間、1人は本機が倒れないようにささえてください。

梱包を開き、同梱部品、本機を取出し、梱包材などの緩衝材の上に置きます。
下記部品リストで部品点数、および損傷の有無を確認してください。

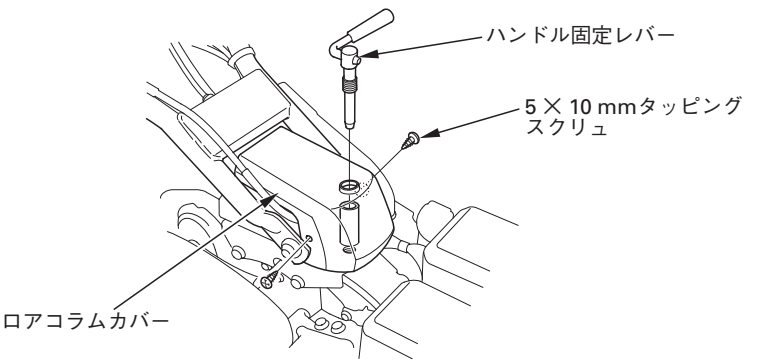
部品リスト

No.	部品名称	個数	
		JS	JD
①	コラムロアカバー	1	1
②	5 × 10 mmタッピングスクリュ （コラムロアカバー取付け用）	2	2
③	保持ピン	1	1
④	固定ピン	1	1
⑤	プラグレンチ	1	1
⑥	プラグレンチハンドル	1	1



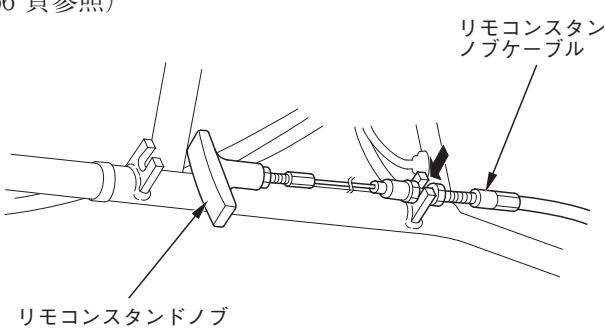
コラムロアレバーの取付け

1. ハンドル固定レバーを外し、ハンドルを時計方向に回し正転位置に戻します。(ハンドルの反転35頁参照)
2. ハンドル上下レバーを押しハンドルを最上段位置にします。(ハンドルの高さ調整33頁参照)
3. コラムロアカバーを取付け、5 × 10 mmタッピングスクリュを確実に締付けます。
4. ハンドルの向きを合わせ、ハンドル固定レバーを確実に締付けます。(ハンドル角度の調整34頁参照)



リモコンスタンドノブケーブルの組付け(JSタイプ)

リモコンスタンドノブケーブルをハンドルに組付けます。
組付け後、リモコンスタンドノブケーブルの点検･調整を行ってください。(65､66 頁参照)



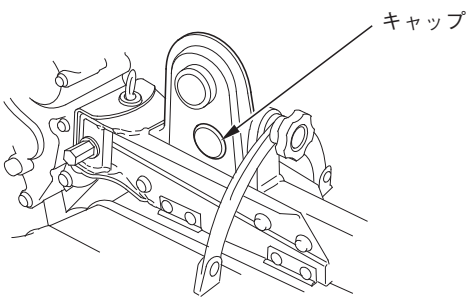
エンジンオイル
エンジンオイルは入っていません。（オイル注入は56、57 頁参照）

ガソリン
燃料は入っていません。（燃料補給は25、26 頁参照）

ロータリ（別売部品）
R300またはRV300は、ロータリ取扱説明書「ロータリの取付け」の手順で取付けてください。（ロータリの取扱説明書12頁参照）

このロータリにはオイルが入っていません。ロータリを本機に取付けた後、次の手順でオイルを注入してください。

1. 本機を平坦な場所に置き、キャップを外します。



2. エンジンオイルを規定量注入します。
   ・Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。
   ・オイル量：220 cc
3. オイル注入後、キャップを確実に取付けます。

《R300・RV300 ロータリ取扱説明書》 はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本ロータリを使用する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本ロータリの操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本ロータリやその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・ 3
安全ラベル・・・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本ロータリを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本ロータリを運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本ロータリを他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本ロータリを常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 管理機、本ロータリを吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 本ロータリの管理機への取付けは平坦で安全な場所で行ってください。

警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本ロータリや管理機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときには、管理機を停止してください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、管理機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、管理機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本ロータリに巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、管理機のロータリ切換えレバーを中立にし、ロータリ爪が回転していないことを確認して行ってください。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ず管理機のエンジンを停止させてから点検を行ってください。

警告

- ロータリ爪は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
- 管理機のエンジンがかかっているときは、絶対に手や足をロータリ爪に近づけないでください。
- 作業中にロータリ爪を点検するときは、必ず管理機のエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転しているロータリ爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
- 作業中異物に当たったときはすぐに管理機のエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま管理機のエンジンを再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- 管理機からの排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、管理機の変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。作業中はロータリ爪の回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

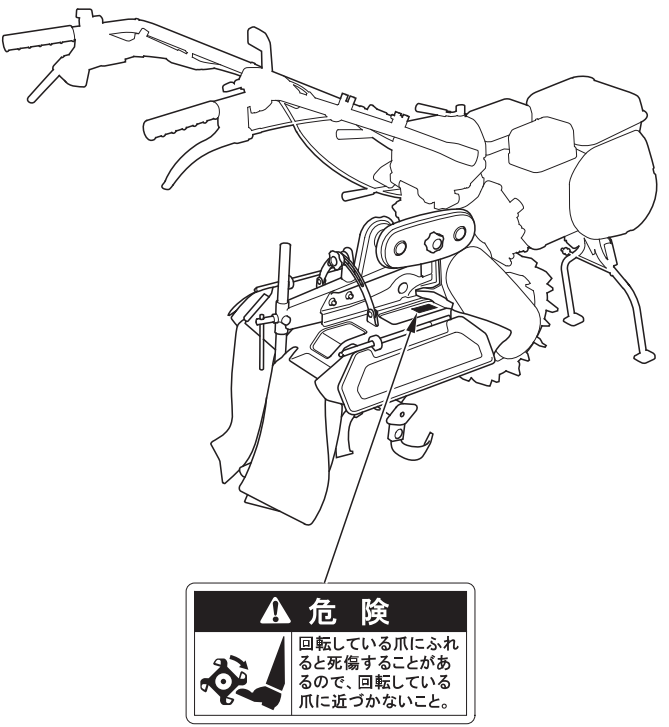
- 次の作業のために本ロータリの点検、整備を行ってください。
- 本ロータリの取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- 停止後の管理機のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。

●積み降ろしおよび運搬時（管理機に取付け時）

- 本ロータリを管理機に取付けたまま、トラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・管理機のロータリ切換えレバーを中立にし、ロータリ爪が回転していないことを確認してください。
  - ・荷台から本ロータリ、管理機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本ロータリ、および管理機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・管理機のエンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本ロータリと管理機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの４倍以上の長さ)アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。

安全ラベル

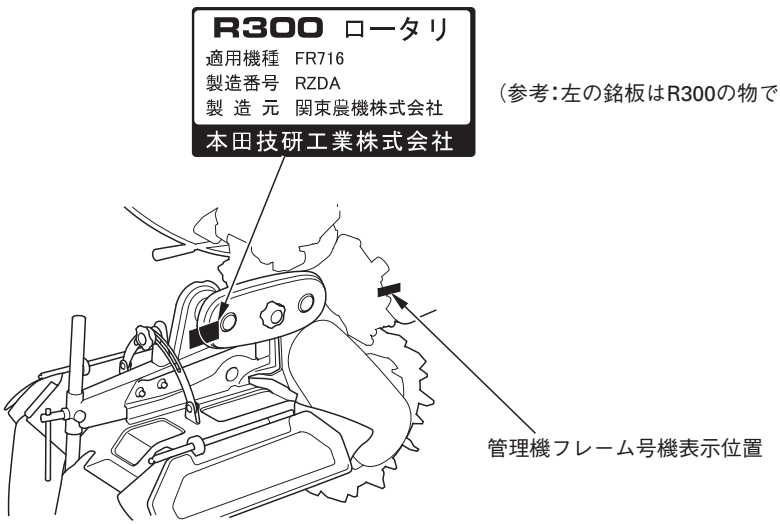
本ロータリを安全に使用していただくため、本ロータリには安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本ロータリに貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名と製造番号をご連絡くださるようお願いいたします。



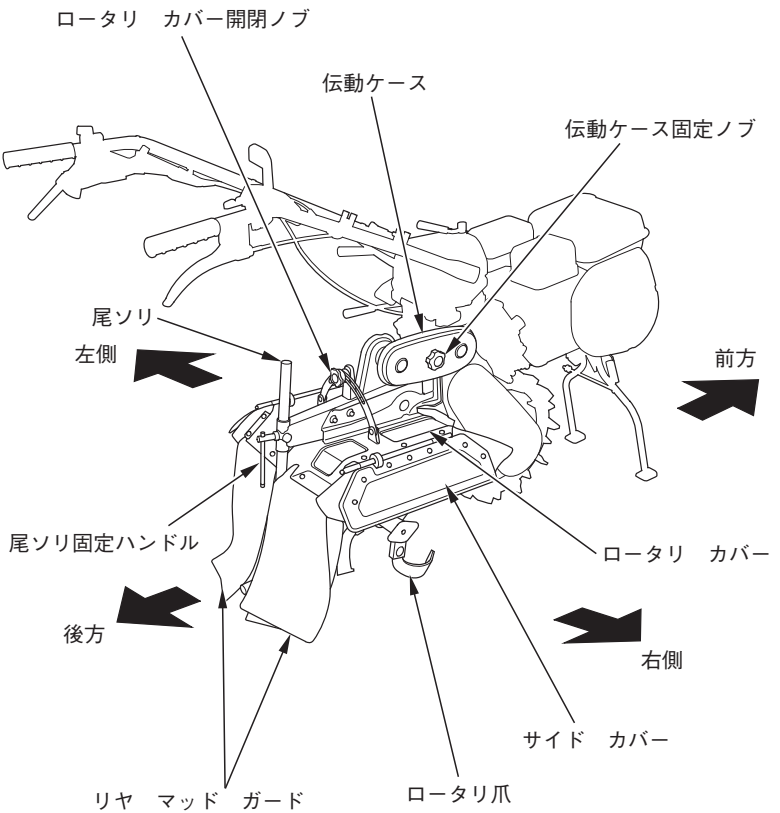
本ロータリの改造や、仕様の限界を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。

安全鑑定

本ロータリは、適合する管理機用作業機です。本ロータリは適合の管理機に取付けた状態で、管理機の安全鑑定に含まれます。

ロータリ	適合する管理機
	安全鑑定型式名
R300およびRV300	ホンダ FR716

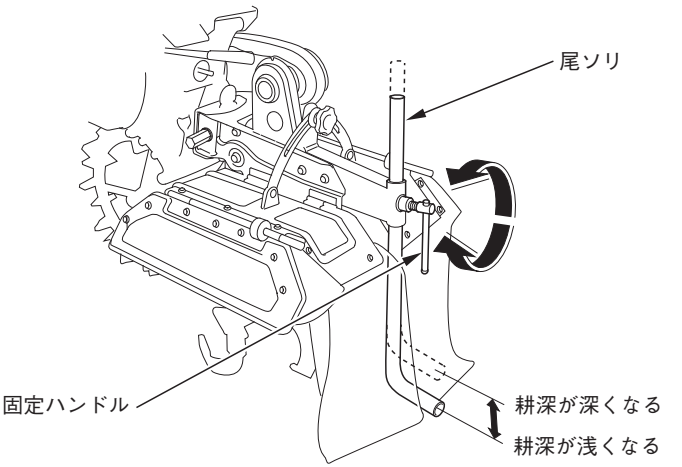
各部の名称と取扱いをおぼえましょう



※矢印の方向指示は管理機のハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

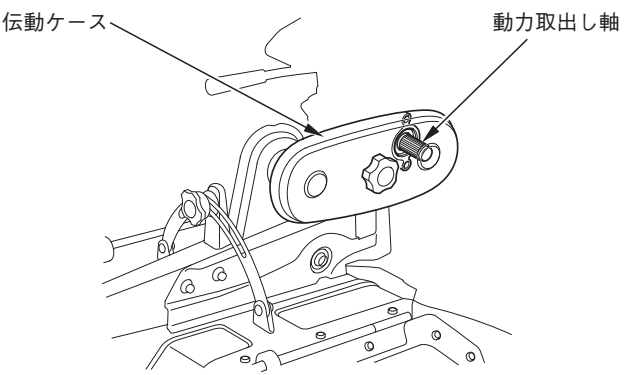
尾ソリ

耕うん深さを調節するとき、固定ハンドルをゆるめ、尾ソリを上下させて耕うん深さを調節します。



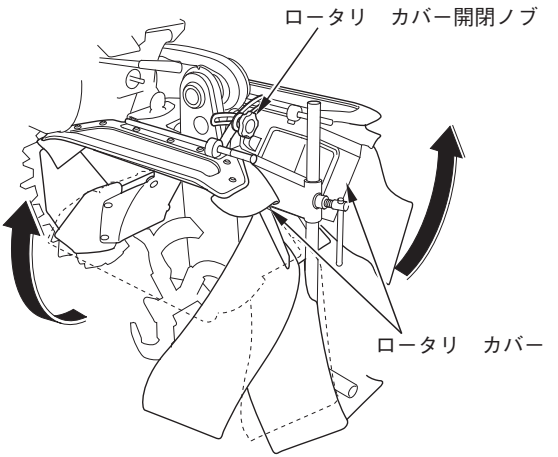
伝動ケース

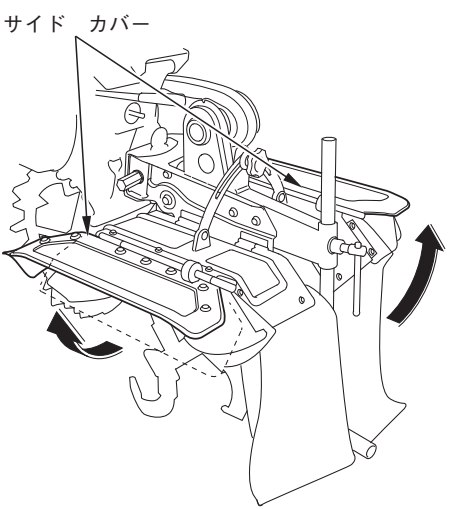
管理機の動力を動力取出し軸から本ロータリへ伝えるケースです。



ロータリ　カバー、サイド　カバー

ロータリ　カバー、サイド　カバーは作業に合わせてロータリ　カバー開閉ノブをゆるめて開閉することができます。
サイド　カバーは作業に合わせて手で開閉できます。





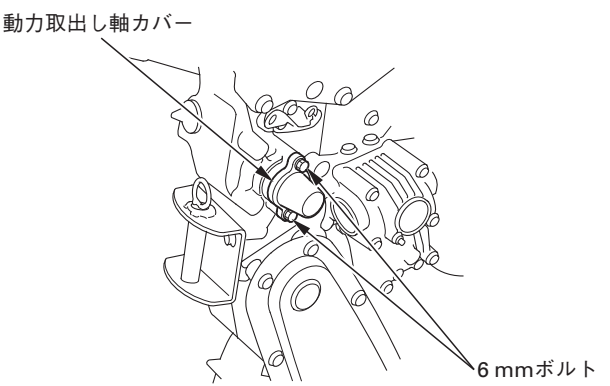
ロータリの取付け・取外し

⚠注意

- ロータリの取付け、取外しは二人で行ってください。管理機が転倒し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。作業をする間一人は管理機が倒れないようにささえてください。
- ロータリの取付け、取外しは平坦な場所で、管理機のエンジンを止めて行ってください。不安定な場所や、管理機のエンジンを始動したまま行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリの取付け

1. 6 mmボルトを外し、管理機の動力取出し軸カバーを取外します。



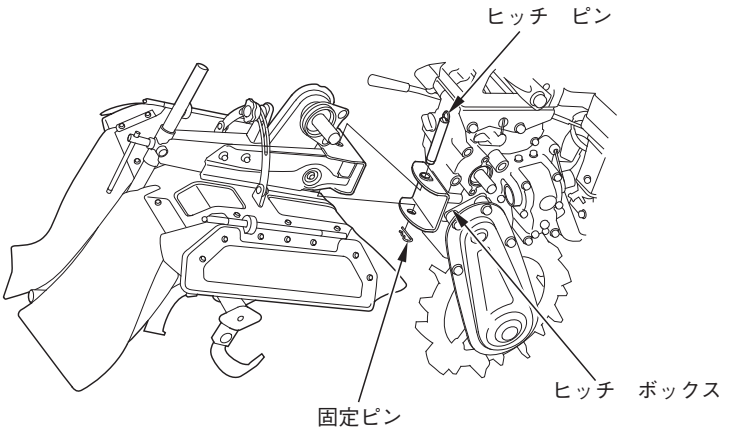
2. 管理機のキャブレータ、および燃料タンク内のガソリンを抜いてください。(ガソリンの抜きかたは管理機の取扱説明書74頁を参照してください)

警告

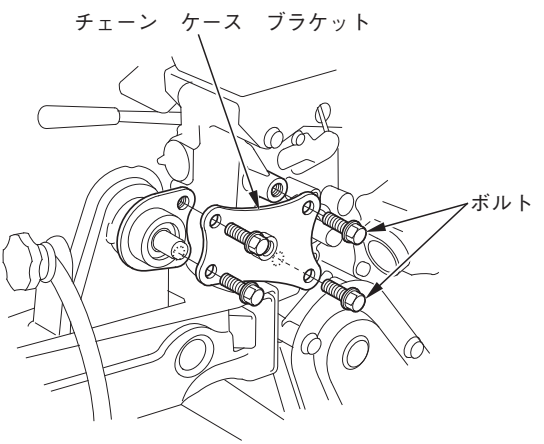
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。

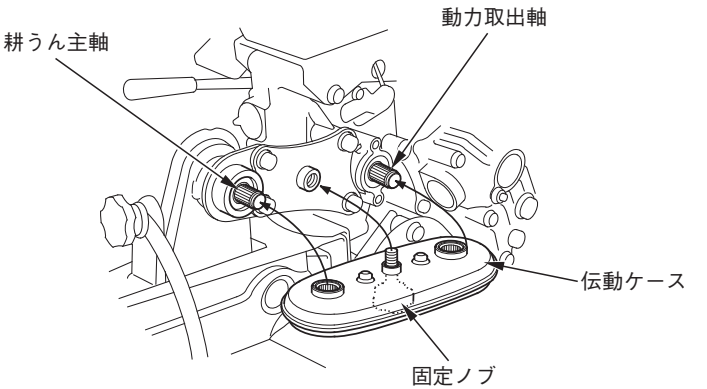
3. 管理機を前傾させ、倒れないように一人が支えてください。
4. 本ロータリを管理機のヒッチ　ボックスに合わせてヒッチ　ピンを取付け、固定ピンを取付けます。



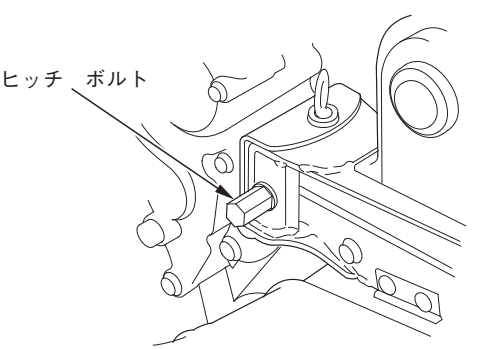
5. チェーン　ケース　ブラケットを取付け、4 本のボルトを確実に締付けます。



6. 耕うん主軸と動力取出軸のスプラインに伝動ケースをはめ込み固定ノブで固定します。
   - スプラインが合わないときは、管理機のエンジン　スイッチが**“切”**の位置になっていることを確認して主クラッチ　レバーを握り、始動グリップをゆっくり引くと、動力取出軸が回転します。耕うん主軸側のスプラインを先にはめ込んで、始動グリップを少しづつ引きながら動力取出軸のスプラインに合わせてください。
   - 伝動ケースは動力取出軸と耕うん主軸が見えなくなるまで完全に入れてください。



7. ヒッチ　ボルトを確実に締付けます。



ロータリの取外し

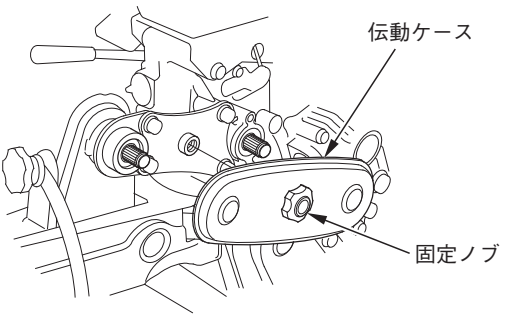
1. 管理機のキャブレータ、および燃料タンク内のガソリンを抜いてください。（ガソリンの抜きかたは管理機の取扱説明書74頁を参照してください）

⚠警告

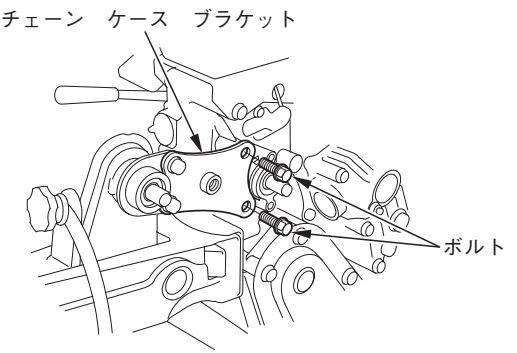
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。

2. 固定ノブをゆるめて伝動ケースを外します。

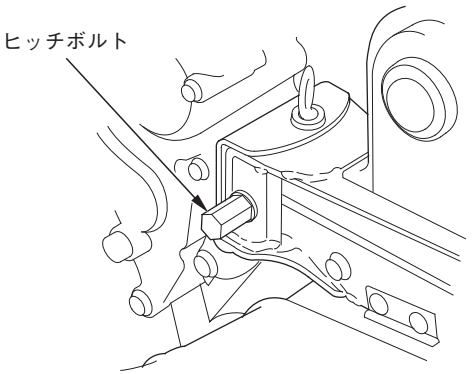


3. チェーン　ケース　ブラケットの前側２本のボルトを外します。本ロータリ側のボルト２本は外す必要はありません。

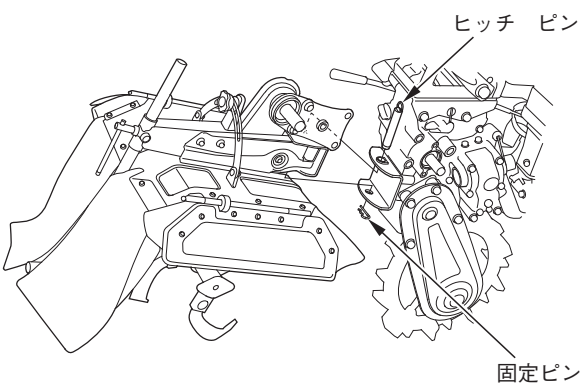


ロータリ

4. ヒッチ　ボルトをゆるめます。

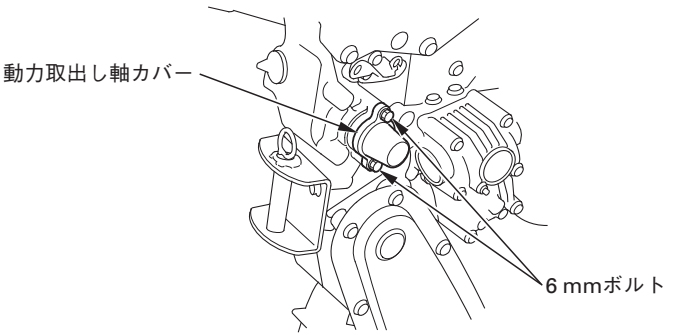


5. 管理機を前傾させ、倒れないように一人が支えてください。
6. 固定ピンを抜き、ヒッチ　ピンを外して、ロータリを持ち上げて取外します。



・ロータリを外した管理機は安定させることはできません。他のアタッチメントを取付けておくか、柱等に固定して倒れないようにしておいてください。

7. 動力取出し軸を使用しない場合は、動力取出し軸カバーを取付けてください。

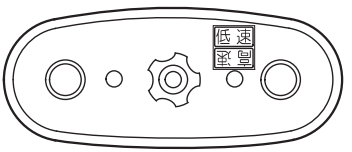
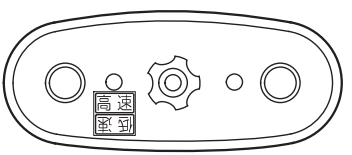


⚠注意

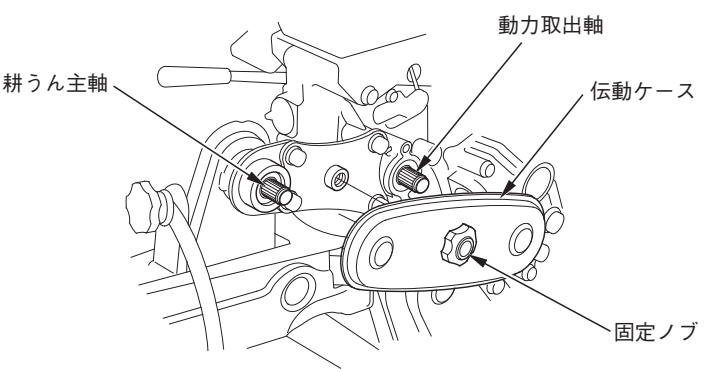
動力取出し軸を使わないときは常に動力取出し軸カバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたり、ケガをするおそれがあります。

伝動ケースの入れ換え

伝動ケースを反転させ、入れ換えることによって、ロータリ爪軸の回転数を2段階に設定することができます。

ロータリ爪回転速度	ケース取付け方向	ラベルの向き
低　速		
高　速		

1. 固定ノブをゆるめ、手前に引いて伝動ケースを取外します。
2. 伝動ケースを入れ換え、耕うん主軸と動力取出軸のスプラインに伝動ケースをはめ込み固定ノブで固定します。



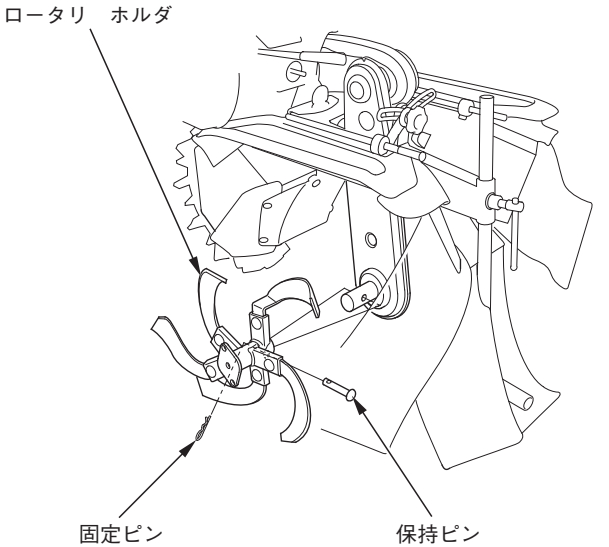
・スプラインが合わないときは、14頁の手順により動力取出軸を回して合わせてください。

ロータリ　ホルダの取付け･取外し

固定ピンを外して、保持ピンを抜き、ロータリ　ホルダを取外します。
取付けは取外しの逆手順で取付けてください。
固定ピンは図の方向から差込んでください。

⚠注意

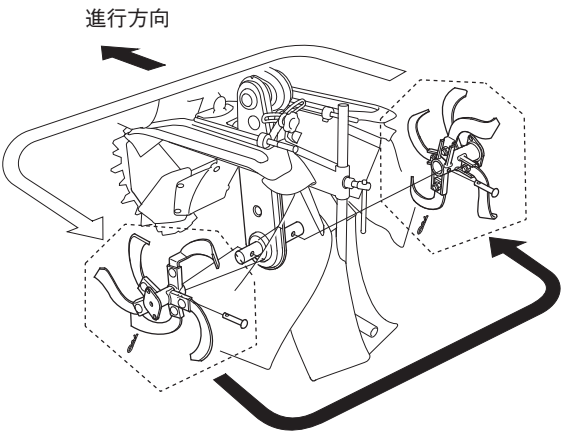
ロータリ　ホルダの取付け、取外しは、平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。



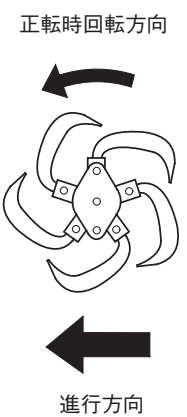
ロータリ逆転作業時のロータリ　ホルダの取付け

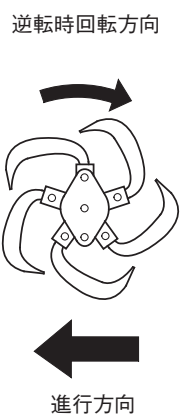
ロータリ逆転作業時は、左右ロータリ　ホルダを入れ換えて取付けてください。

・RV300ロータリの場合：左右のロータリ　ホルダは、変形爪を180°ずらして取付けてください。



図は正転時を基本とし、逆転時の入れ換えを矢印で表しています。

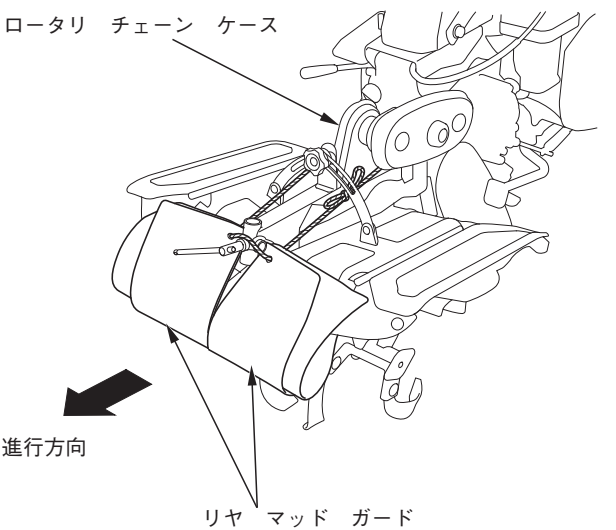




リヤ　マッド　ガードの処置
（管理機ハンドル反転での前進作業時）

管理機のハンドルを反転の位置にし、ロータリ側へ進行して作業すると、リヤ　マッド　ガードがロータリに巻き込まれます。
管理機のハンドルを反転の位置にし、ロータリ側へ進行して作業する場合、リヤ　マッド　ガードが垂れ下がらないように、ひもなどで固定してください。

リヤ　マッド　ガードの穴に図のようにひもを通し、ひもをロータリ　チェーン　ケースに固定します。



・管理機のハンドルを正転の位置に戻すとき、ひもなどを外しリヤ　マッド　ガードを下げてください。

作業前に点検･調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で、管理機のエンジンを止めて行ってください。
不安定な場所や、管理機のエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

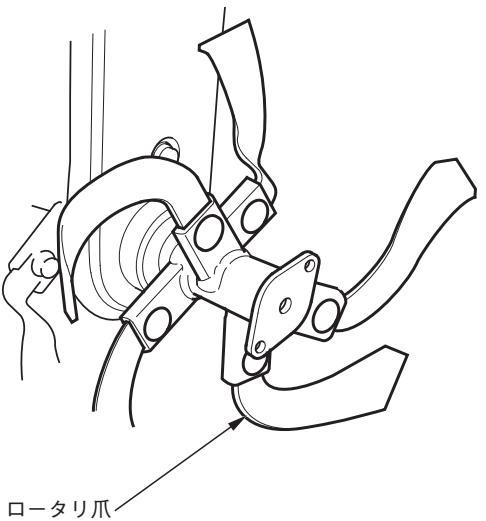
いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本ロータリのまわり‥‥オイルの量は規定量入っていますか。オイルの漏れはないですか。(30頁参照)
  本ロータリ廻のゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- 各部の締付け‥‥‥‥‥ロータリ爪にゆるみはないですか。
  ヒッチ　ボルトにゆるみはないですか。
  ロータリ各部のボルト、ナットにゆるみはないですか。

- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

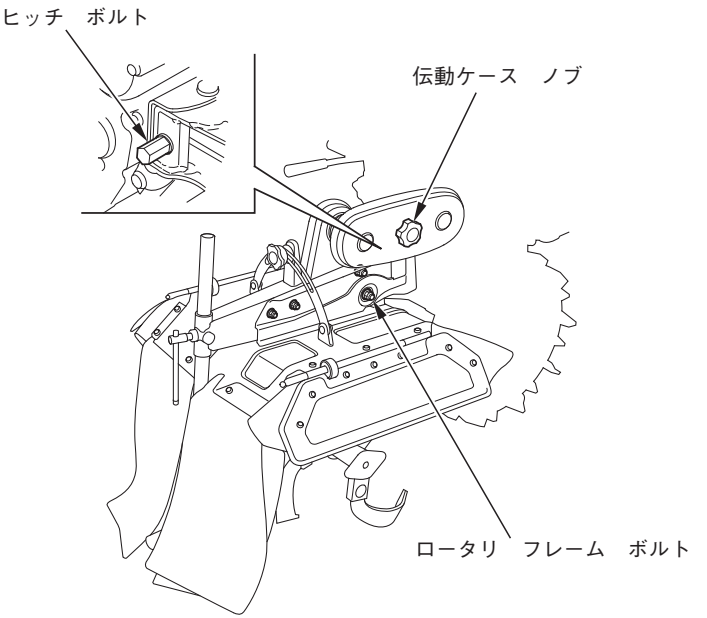
●ロータリ爪のゆるみ点検

1. ロータリ爪にゆるみがないことを確認してください。ゆるみがある場合は、締付けてください。
2. ロータリ爪に損傷、曲がりがないことを確認してください。異常がある場合は交換してください。（ロータリ爪の交換は34頁参照）



●ロータリ各部のゆるみ点検

1. ロータリ　ヒッチにゆるみがないことを確認してください。ゆるみがある場合は確実に締付けてください。
2. ロータリ各部にゆるみがないことを確認してください。ゆるんでいる場合は確実に締付けてください。



耕うん深さの調整

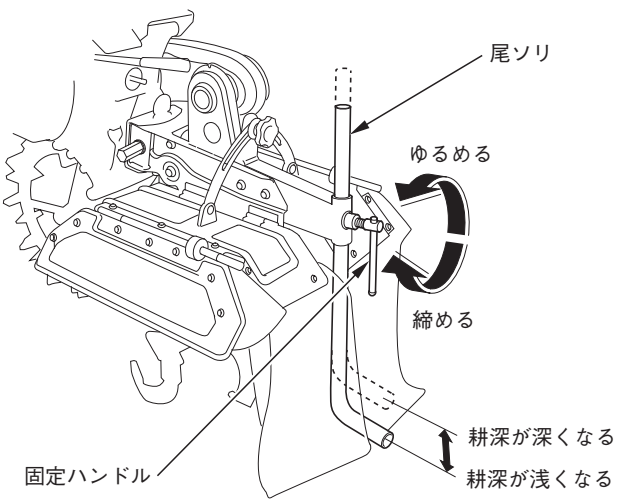
耕うん深さは固定ハンドルをゆるめて尾ソリを上下に移動して調整します。

⚠注意

調整は、平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。

尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる
尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる

土が柔らかくて、ロータリが潜ってしまうときには、尾ソリを押し下げてください。または土が硬いときにも、尾ソリを押し下げて耕深を浅くしてください。



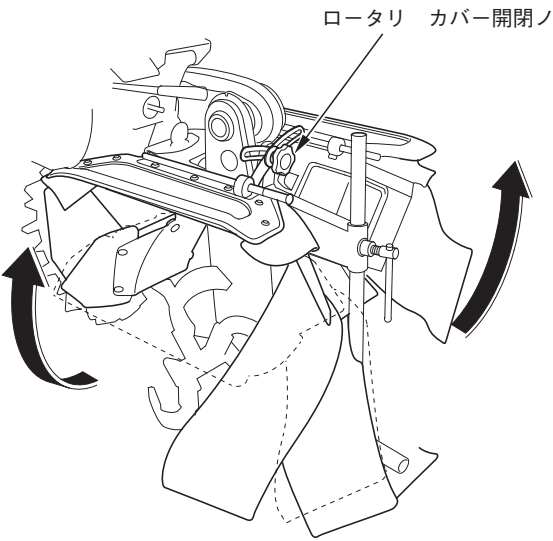
ロータリ　カバー、サイド　カバーの調整

作業に合わせてロータリ　カバー、サイド　カバーの角度を調整します。

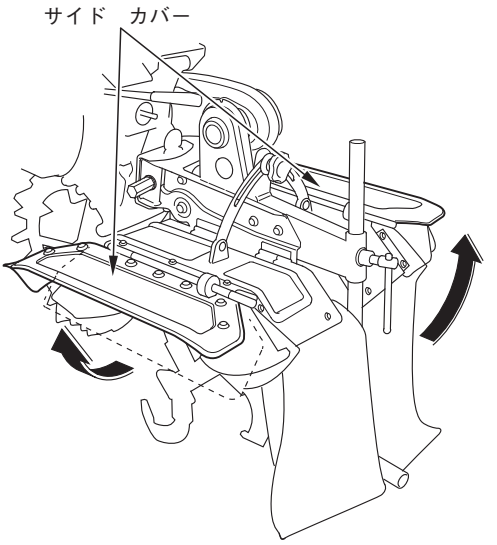
⚠注意

調整は、平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。

ロータリ　カバー開閉ノブをゆるめてロータリ　カバーの角度を調整します。調整後、ロータリ　カバー開閉ノブは確実に締付けてください。

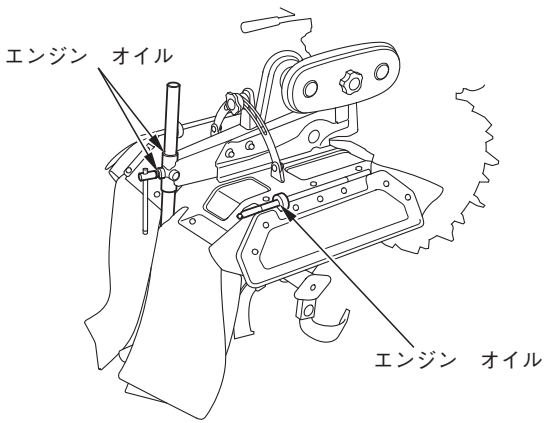


サイド　カバーは作業に合わせて手で開閉します。



作業後の手入れのしかた

作業終了後、その日のうちに土や付着物を洗い落とし、水分をきれいに拭取ってください。
各摺動部にエンジン　オイルを塗布してください。
各部の締付けを確認し、ゆるんでいる場合は、確実に締付けてください。



⚠注意
本ロータリを高圧洗浄機で洗浄する場合、高圧で本ロータリを損傷させるおそれがあります。
洗浄ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本ロータリをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検時期（1）／点検項目		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
本ロータリ周りの点検	点検		○					22
各部の締付け	点検		○					22
ロータリ　チェーンケース　オイル	点検	○						30
ロータリ爪、ヒッチのゆるみ	点検		○					23,24
ロータリ各部のゆるみ	点検	○						24
ロータリ各部の給油およびグリース	塗布						○	32

（1）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

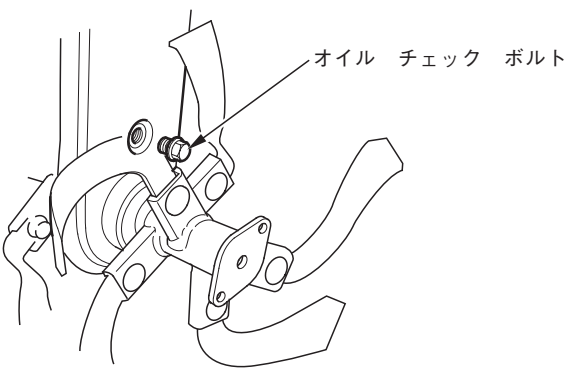
⚠注意
点検、整備は平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。

ロータリ　チェーン　ケース　オイルの点検

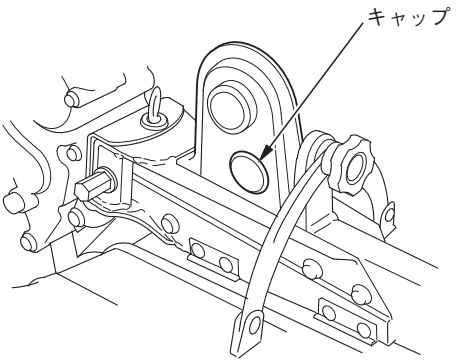
《点検時期》 稼動期前

《点検のしかた》

1. 本ロータリを平坦な場所に置き、オイル　チェック　ボルトを外してオイルが口元まであることを確認します。



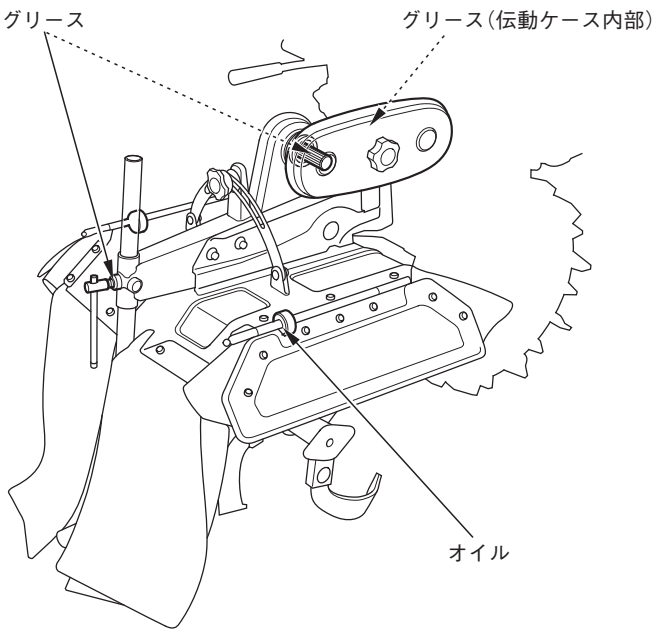
2. 少ない場合はオイル注入口のキャップを外し、エンジン　オイルをオイル　チェック　ボルト穴から流れ出るまで注入します。
   ・Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
   またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。
3. 補充後、オイル　チェック　ボルトを確実に締付け、キャップを取付けます。



ロータリ各部の給油およびグリース塗布

指示箇所にオイルまたはグリースを塗布します。
《給油時期》 1年毎または300時間運転毎

推奨グリース：マルチパーパス　グリース
推奨オイル：　エンジン　オイル
・Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。



伝動ケース内のグリースについては、お買い上げ販売店にご相談ください。

ロータリ爪の点検・交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所で管理機のエンジンを止め、点火プラグキャップを外してから行ってください。
- 手にけがをしないよう厚手の手袋を着用してくださ。

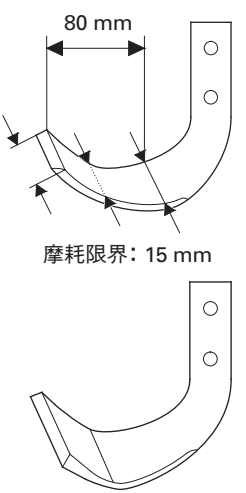
《点検のしかた》

1. ロータリ爪に損傷、曲がり、ガタがないことを確認してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。
2. ロータリ　ホルダの保持ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しい保持ピンと固定ピンを取付けてください。

取扱いのポイント

- ロータリ爪はHonda純正部品を使用してください。
- ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向から固定ピンを差し込んでください。

3. ロータリ爪先端から80 mmの範囲内で、ロータリ爪巾が摩耗により15 mm以下になったら、ロータリ爪を交換してください。
   ・効率の良い耕うん作業のために、ロータリ爪は早めにお取替えください。

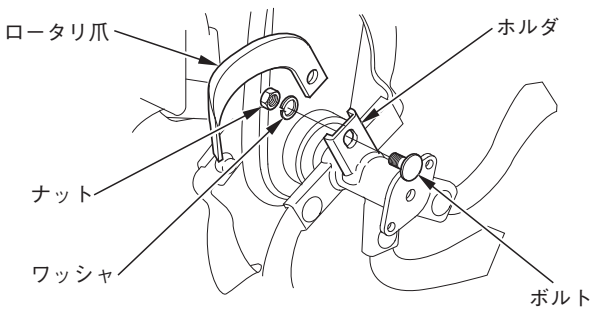


《交換のしかた》

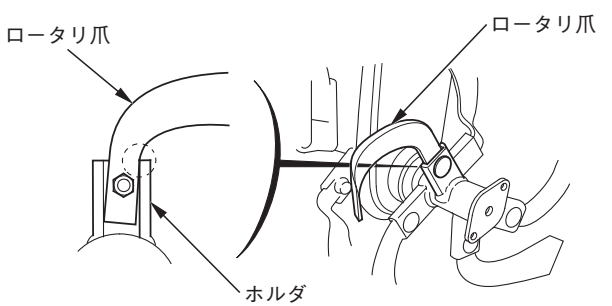
⚠注意

- ロータリ爪の交換は、平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。
- ロータリ爪の取付けは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

1. 17 mmメガネ レンチでナットを外し、ボルトとワッシャを外します。ロータリ爪をホルダから取外します。



2. ホルダの長穴にボルトの四角部を入れ、ナットを確実に締付けます。
   ・ロータリ爪とホルダの隙間を無くすため、ロータリ爪を手で押さえながらナットを締付けてください。爪とホルダの間に隙間があると爪がゆるみやすくなります。



ロータリ爪の取付け方向

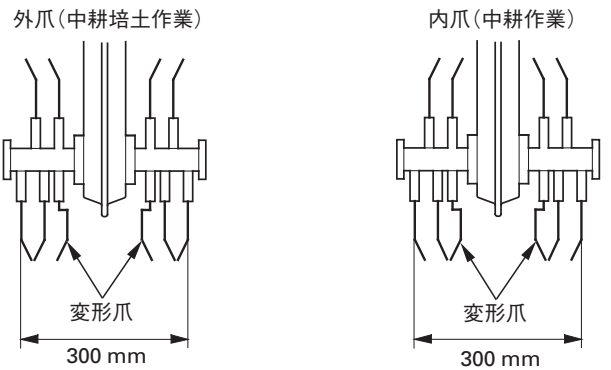
図のようにそれぞれの方向にロータリ爪を取付けてください。

・ボルト、ワッシャ、ナットは常に同一方向から取付けます。

⚠注意

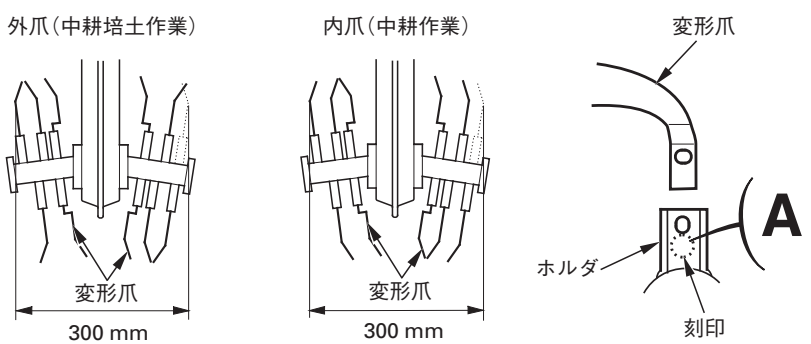
- ロータリ爪の交換は、平坦な場所で管理機のエンジンを停止して行ってください。
- ロータリ爪の取付けは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

R300



RV300

・変形爪は“A”の刻印のあるホルダに取付けます。



主要諸元

名　　称	R300	RV300
駆　動　方　式	センタードライブ	
耕　　耘　　幅	300 mm	
爪　回　転　径	330 mm	
爪　回　転　数	447 rpm（正転／高速）、240 rpm（正転／低速） 449 rpm（逆転／高速）、241 rpm（逆転／低速）	
質　量［重　量］	20 kg	
適　応　機　種	ホンダ FR716	

諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30773810
00X30-773-8100

Ⓢ ⓃⒽⒸ 150.2012.07
©2012 本田技研工業株式会社